

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



指針はひとつ 「市のために」

平成13年度社員総会

近代桐生のいしずえには、市民パワーの結晶がある。優勢な織物産業を背景にして多くの社会事業に貢献した桐生懇和会は、その代表的存在である。とりわけ教育施設の充実に注いだ熱意と情熱には並々ならぬものがあった。

1月30日に開かれた平成13年度社員総会であいさつにたった塚越平人理事長は、最近刊行したばかりの『桐生高校八十年史』を手に、その前身である町立中学校の創設にあたって、当時の市民の願いを背負って奔走した懇和会の役割の重要性をひもとき、「この懇和会こそが桐生倶楽部の母体。ときに直言をはばかりことなく、そうやって市の発展に尽くしてきた先輩に敬意を表わずと共に、こんども私たち一人ひとり、力を合わせ、市のために尽くしてくださいようお願いします」と、新世紀の指針を語った。

平成13年新年互礼会



桐生倶楽部の平成13年新年互礼会が1月4日に開かれました。

さまざまな喧騒と時代の不透明感のなか、期待をつないで迎えた新世紀。あいさつに立った塚越平人理事長は、社会の行く末を握るであろう科学技術の発展と教育問題をとりあげました。めざましい成果を上げる科学の分野、その一方で、将来の担い手となる子どもたちの教育環境は行き詰まりを見せています。社会の進歩に真に貢献する科学の実現のためにも、これは私たち一人ひとりが真剣に考えていかねばならない問題でしょう。関係機関には一日も早く、学力定価低下の

改善、また徳育の充実と、山積する課題へ取り組んでいただきたいと、理事長は訴えました。

この日の互礼会には76人が出席、多くの来賓を迎え、会場は新世紀にふさわしい活気に包まれました。

(2階大広間)

活気の中、初顔合わせ



謡曲で初春の祝い
藤門会が華そえる

桐生藤門会（金子剛三会長）による宝生流謡曲が新年互礼会の席で披露され、おめでたい初春の雰囲気、しぶいのどからあふれ出ました。

倶楽部社員の大沢英夫さんはじめ、饗庭正夫さん、石内一夫さん、木島富美雄さん、坪井良行さんによる「鶴亀」、また竹田きみ子さんによる仕舞「高砂」と、いずれもベテランの域に達した味わいで、祝宴前のひとときを盛り上げました。

記念品

秋の叙勲に輝いた近藤英一郎さん、また大蔵大臣表彰の正田博之さんに対し、桐生倶楽部から記念品が贈呈されました。



にぎやかに初登り

歩く会 新春恒例の吾妻山

二〇〇一年の初例会は天候に恵まれた一月七日、二十数名の参加者を数え、中には可愛いお孫さんの姿も交り楽しく、にぎやかな初登りとなりました。▼午前九時吾妻公園駐車場に集合し、藤井会長の新年挨拶の後、歩き始めという事で各自のペースに合わせてゆっくりと山頂をめざしました。市民に親しまれている山とあって行き交う人もかなり多く、途中トンビ岩で小休止、約一時間くらいで山頂広場へ。眼下に広がるふるとの街並を眺め、遠くには富士山の姿も望む事が出来ました▼全員の記念写真を撮り、下山は自然の多く残る女吾妻、松村峠、松村沢を経て十一時頃までには昼食会の会場である宮本町の「そば一」へ。最近出来た「おそばや」さんという事で木の香の残る新しい建物、またマスターの特別サービス品等もあり宴も盛り上り、新しい年の幕開けにふさわしい例会となりました。

(後藤久夫記)

維新の史跡と美術館めぐり

美術部会と歩く会、協賛でバスの旅

歩く会と美術部会協賛の12月例会が昨年12月10日に開かれ、35人の参加者は皇居北側の史跡探訪と美術館めぐりを堪能した。

維新以降の史跡が多い千鳥が淵、靖国神社周辺を散策した一行は、そこから国立美術館、工芸館へ向かい、北の丸公園で昼食をとったのち、地下鉄で東京オペラシティへ。ショッピングの自由時間もたっぷり用意され、盛りだくさんの一日を楽しんだ。





子どもたち大喜び

恒例クリスマス祭盛況

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が、昨年も12月9日に開かれました。社員や家族ら73人が参加しましたが、これは前回は上回る盛況で、特に今回は主役となる子どもたちの姿が目立ち、主催者を大いに喜ばせました。

アットホームな催しとして、倶楽部が年間イベントのなかでもとりわけ力を入れているのがこのクリスマス祭です。聖書朗読や賛美歌の合唱、またミニコンサートが用意され、今回は須永由紀子さんのピアノ演奏にのせ、関口睦海さん、愛海さん母娘がたくさんの歌を届けてくれました。おいしい料理やお菓子、うれしいクリスマスプレゼントと、歓声をあげる子どもたち。楽しい温もりの夜はまたたくまに過ぎていったようです。

なお、今回サンタクロースに扮したのは矢野昭さんです。ごろうさまでした。

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

浅草の力車走るや初時雨
山茶花や表札残す旧医院
清貧に生きて悔なし木の葉髪
空濠に散る山茶花の幾星霜
諸花散るや野に山茶花の咲きほこり
山茶花や素焼粘土の並びおり
木の葉髪老舗の客でありしこと
冬めいて日向にじつと蜥蜴の子
川向ふ窓に灯ともり冬めきぬ
山茶花の咲くや一度に七つ八つ

小池 久保田 本田 遠藤 清水 下山 尾澤 有阪 吉成 大槻

十二月

住む人の去りて枯菊残りおり
金賞の思い出のこし菊枯るる
仲見世の敷石歩む冬の鳩
寒禽や朝の勤めの太鼓打つ
菊人形枯れし衣裳のまま眠り
朝の陽に銀の矢と化し冬の鳥
枯菊をくべて火の色かはりけり
空っ風老いの襟元容赦なく
一夜にて散りて仕舞ひぬ沙羅紅葉
寒禽の鳴く声細し藪の中

久保田 本田 小池 遠藤 吉成 大槻 尾澤 下山 有阪 清水

= 倶楽部だより =

- 【12月】
- ・クリスマス祭 (9日)
 - ・歩く会例会—東京 (10日)
 - ・理事会 (11日)
 - ・歩く会反省会 (15日)
 - ・はぐるま句会 (26日)

- 【1月】
- ・新年互礼会 (4日)
 - ・歩く会例会—吾妻山 (7日)
 - ・理事会 (13日)
 - ・監査会 (22日)
 - ・歩く会世話人会 (22日)
 - ・はぐるま句会 (26日)
 - ・臨時理事会 (30日)
 - ・定時社員総会 (30日)

【退社社員】

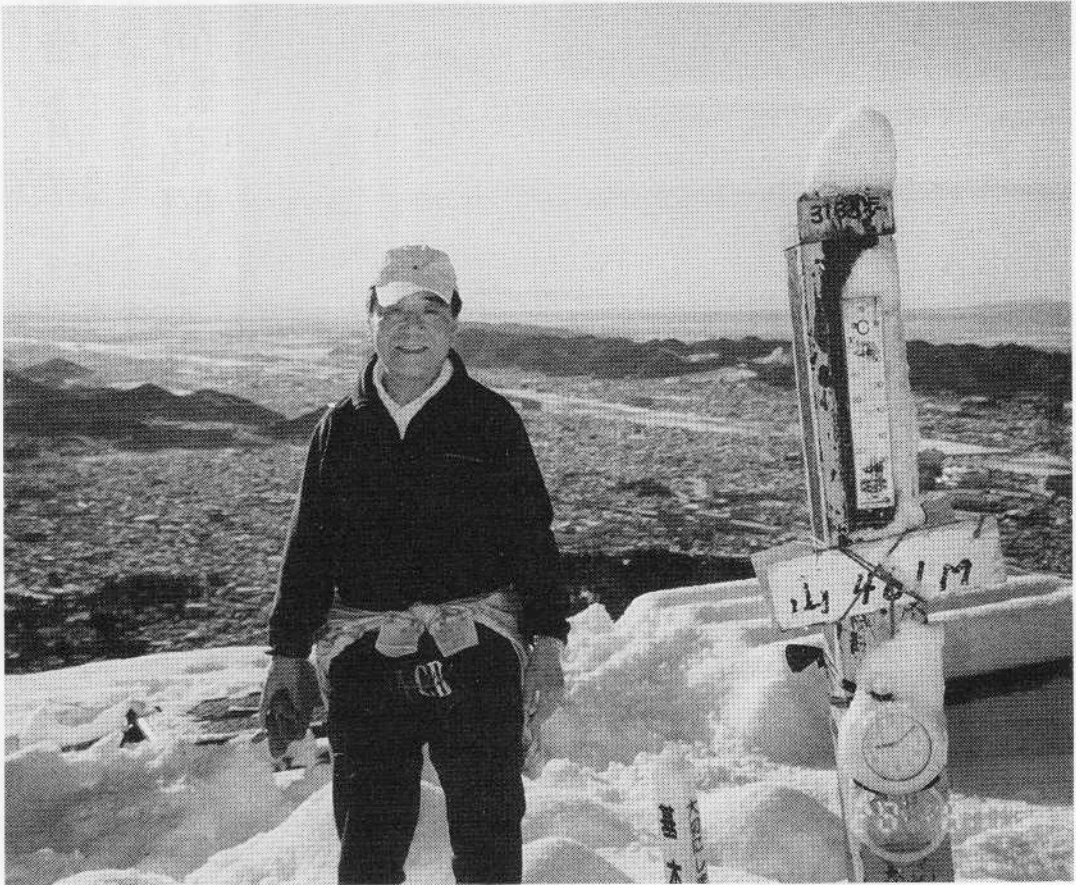
- ・フジハツ工業(株) ・野口眞光
- ・金子篤正
- ・渡辺輝巳 (ご逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第121号
2001年(平成13年) 2月発行

発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



浩然の気を養う

新しい世紀を桜が飾って、若葉の季節がめぐってきました。今回の表紙はちよつと趣を変え、社員から提供された写真で飾ってみました。さる一月二十八日、雪の吾妻山に登った木島清さんです。その前日も降りしきる雪のなかを登ったそうのことしにかける力強い足取りです。銀世界の

倶楽部の心意気

まちと青くつきぬけた空、その間に満ち満ちた精気が降り注ぐ太陽に輝いています。

「浩然の気を養う」とは、こんな瞬間をいうのでしょうか。いま、私たちのまちにもそんな深呼吸のひとつが求められています。倶楽部の心意気を感じる一枚です。

第4次総合計画の視点

市民とパートナーシップ



月次会報告 3月

桐生市企画部長

高野喜昭さん

向こう10年 桐生の歩み

3月月次会は、この4月からスタートした桐生市の第4次総合計画について、立案の事務責任者である市の企画部長高野喜昭さんが講演し、「元気」「安心」「心豊か」をテーマとしたさまざまな計画を通し、向こう10年で取り組む私たちのふるさとづくりを語った。

厳しい財政事情の中、建設から維持管理へ、ハードからソフトへと市政の重点も移行しつつある現在において、大切なのはいかに市民の声を政策に反映させていくか、そうした手法の具体性だが、その点で今回の総合計画は、まさに市民とパートナーシップを組んで練り上げてきたと高野さん。これまでの総合計画は行政の計画案を市民に承認してもらうという、いわば一方的な流れで進められてきた。しかしたとえば第3次計画の10年をみても、少子高齢化、高度情報化、環境志向の強まりと、その激しい変化に対応しきれなかった反省があるという。このため第4次計画では、基礎調査や市民アンケートの結果な

どをふまえた行政試案を市民に公開し、提言をもらったのちに諮問案を作成。公募委員を含めた審議会で検討し、答申案を受けて市長が市議会に上程し議決。ここまで、3年の歳月を要したという。

第4次計画がめざす市の将来像は「人と自然にやさしい にぎわい織りなすまち」。これを実現するための主要事業として、ファッションタウン構想の促進、産学官民の連携、少子高齢化への対応、環境保全、桐生を好きな子どもの育成、市史編纂、北関東自動車道のアクセス道路整備、本町1・2丁目の拠点整備、市民活動との連携協働、地域情報ネットワークの構築などに特別プロジェクトを設けているのも今回の計画の特徴だ。

産業振興では元気と活力、保健福祉では思いやりとやさしさ、生活環境では安心と潤い、人と文化を育む教育、都市基盤では安全と魅力、そうした着眼点からさまざまな施策が盛り込まれている。

この総合計画をもとに3年ごとの実施計画を組んで予算づけされていくことになるが、総合計画がどこまで進んでいるのか、これを市民にわかりやすく公表し、透明性のある財政を実現していくことも今計画の重要なテーマだと高野さんは語り、地方分権や市民参画、男女共同参画、効率的な財政運営などの時代の要請に取り組みながら、「市民が幸せに生きていけるまちにしていきたい」と結んだ。（3月26日午後6時、2階大広間）

春まだ浅い大小山へ



歩く会2月例会

今回は、久しぶりにJRに乗って富田駅下車、大小山と西場町の百観音を訪ね、時間があれば栗田美術館にも寄りたいたいという欲張ったスケジュールである▼一度桐生倶楽部に集合して揃って桐生駅に行き八時四七分の小山行きに乗る。何年振りかの両毛線である▼富田駅で下車、駒場町の集落の古い造り酒屋の間を通り山裾の日光三社神社へ出てから再び冬枯れの田圃通へ入る。尾根の鼻の百観音の丘が見えるのであるべく近道を辿る。空は青く澄み春を間近かに感じ

させるハイキング日和である。梅の花もやっとほころび始める▼一段丘上の百観音は整然と三段に並び、早春の日を浴びて静かに日向ぼっこして暖かそうである。寛政二年から十年にかけて造立されたというから、丁度二百年前になる。これだけのものを作った当時の村人の信仰心にも感心させられる▼再び西場の集落を通り、山懐の阿夫利神社登山口に向う。駐車場には相当数の車が止まり、山の賑わいを知る。この神社に奉納されている大天狗・小天狗の面が大小

山の名の由来とも聞く。緩かながら長い石段が杉林の中を続く。漸く雑木の土の道となるとやや傾斜も増す▼天狗岩下の四阿やのある小平地で小休止、関東の大展望が開ける。傍に普門品供養塔の観音信仰の文字碑がある。これも西場の百観音と関連があるのであろう▼呼吸を整えて急な梯子段を登る。先頭とは大分離れてしまつたろうがマイペースで歩く。狭い岩つばい尾根に出て一登りで岩の山頂へ。ここが大小山の頂上か。まだ奥にもう一つピークがある。標示では妙義山とある。岩と小石のザラザラした歩きにくい道、一端急に下りそれ以上に登る。狭い頂上の群に仲間はいなかった▼少し右尾根を降りた岩で漸く皆と逢える。ゆっくり昼食をして、下りもロープの急降下から始まる。息切れすることもなく下りは楽で雑木の尾根から杉林に出て登山も終了である。

(藤井 記)



3月は赤雪山

3月の歩く会は、15人が参加して足利市の赤雪山をめざした。登り1.5キロのほどよい行程は好天に恵まれ、山頂では東京方面や日光連山の展望を満喫することができた。

ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



吉田 長生

桐生市相生町5-444-62

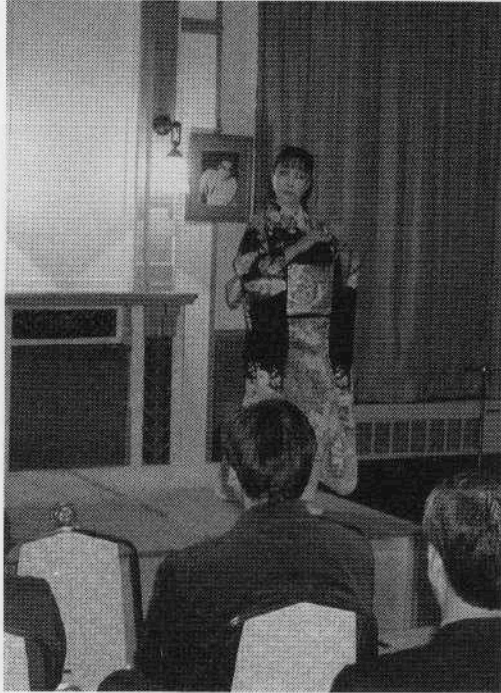
昭和8年7月30日生

TEL 0277-52-9595

FAX 0277-52-0606

恒例文化祭の日程決まる

桐生倶楽部の第27回文化祭は5月18、19、20日の3日間と決まりました。20日にはガーデンパーティーが開かれます。



「桜の森」の地歌舞

安吾忌の集い

桐生倶楽部懇話会と安吾を語る会共催の「安吾忌の集い」が2月28日夜開かれ、今回は地歌舞の古澤侑峯さんが安吾の「桜の森の満開の下」を即興的に披露、参加者たちは代表作のイメージの世界を楽しんだ。

安吾の命日である2月17日と、桐生に移り住んだ引越し記念日2月29日をおかね、12年前から続いている催しで、ことしも坂口綱男さん、「白痴」を撮った映画監督の手塚真さん、また新潟や東京の研究者たちも加わって75人に。押見清美さんの朗読に続き、吉岡龍見さんの尺八の音に乗って舞った古澤さん。「桜の森」はずっと好きだった作品だという。

綱男さんは「いまでも安吾の本は書店に並び、全集が出、若い人たちに読み継がれている。誕生日や命日にあちこちで会が開かれる。人の心に残っていく。わが父ながら誇らしい。年に一度は桐生にきたい」とあいさつ。手塚さんも「白痴」が新しい世代への架け橋となることを願い、からくり人形の見学などを通し、「安吾を離れても桐生との縁ができていく」ことを喜んでいた。

(2階大広間)

桐生倶楽部はぐるま句会

一 月

学窓に春待つ曲の流れおり
亡き母の仕立てし紬松の内
遠吠えて犬応え合ふ寒の月
春待つや日毎に変わる空の色
初春やポストカブセル妻より来
すべり台塗るかへられて春を待つ
病むといふ添書増えし賀状かな
冬の月音無くすべて凍てつくす
日冴えていらかの波の静まれり
春待つや生あるものに呼吸吸気

久保田 吉成 尾澤 清水 大槻 本田 小池 下山 有阪 山田

二 月

道順を変えて探梅いくたびも
梅の香を幾百年の仁王像
ひとり居のひねもす雪解寒かな
空晴れてなおうらめしき雪解道
下萌ゆる園児の列の伸び縮み
若駒の大地を蹴って草萌ゆる
老梅に紅一輪の色香かな
名刺のいつも人ある臥竜梅
下萌えの小さき花を踏まずゆく
雪解けや生きてしおれば鬚を剃る
笠懸野原人はしる草の青

本澤 尾池 小水 清藤 遠藤 有阪 吉成 久保田 大槻 下山 山田

= 倶楽部だより =

- 【2月】
 - ・歩く会例会 足利大小山(11日)
 - ・理事会(13日)
 - ・文化活動委員会(26日)
 - ・歩く会世話人会(27日)
 - ・はぐるま句会(27日)
 - ・懇話会 安吾忌(28日)
- 【3月】
 - ・理事会(9日)
 - ・歩く会例会 赤雪山(11日)
 - ・歩く会世話人会(21日)
 - ・はぐるま句会(23日)
 - ・月次回「桐生市第4次総合計画の概要」(26日)

【退社社員】

- ・大川 仁 (逝去)
- ・暮田禎一郎
- ・園田徳司
- ・遠藤俊一 (逝去)
- ・宇田幸康

社団法人 桐生倶楽部会報 第122号
 2001年(平成13年) 4月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



にぎわったガーデンパーティー

文化の拠点、高い評価

桐生倶楽部という存在が、市民の目にはどのように映っているのか。今回それが、ひとつの形になりました。

桐生ファッショントウン推進協議会（岸田英作会長）が選定をすすめていた「桐生ファッショントウン大賞」で、倶楽部が「桐生ファッショントウン賞」に選ばれました。前身の桐生FT賞を受賞

桐生懇和会時代からまちづくりに大きな影響力をもち、多くの名士が訪れたその建物は、長く政治・経済・文化の拠点であったこと、そして創立の精神はいまなお脈々と受け継がれていることが評価されたものです。

五月二十日に開かれたガーデンパーティーの席上、塚越理事長から報告されました。

花とワインとコンサート



月次会報告
(4月)

春の宵
値千金

花と愛で、ワインを味わい、コンサートで心を潤すという、咲き乱れる春そのままの4月例会「花とワインとコンサート」。16日、宵のライトアップで庭内のソメノヨシノが艶やかに浮かび上がる中、社員やその家族ら67人がワインを片

手に散策、談笑と、色とりどりの楽しみ方でひとときを過ごした。

興趣を盛り上げたワインとパン・チーズ類は今回もまた、栗田、赤石両理事から格段の協力があった。ロビーでは、ソプラノ山崎真由美さんとピアノ須永由紀子さんによるコンサートも開かれて、クラシックから日本の叙情歌まで15曲を披露。まさに春満載の宵となった。

(担当 木島、関口)

撮影・後藤久夫さん



山古志村で棚田撮影

写真部会

写真部会は4月21日から一泊で新潟県の山古志村へ撮影会に出かけた。

山あい広がる棚田の風景が有名な山古志村はこの時期はまだ、雪を残している。朝日、夕日に輝く独特の情景を堪能しながら、7人の参加者たちは思い思いにシャッターを切った。

文化祭に力作ずらり

5月18日から開かれた第27回桐生倶楽部文化祭。写真部門に15人38点、絵画部門に3人10点、俳句部門に8人20点が出展し、会場となった2階大広間には大勢の人が訪れた。





コヒガンザクラの高遠

歩く会四月例会

「今年は急に花が咲いたので、色が大変薄い」と、土地の人は嘆いていた。しかし千五百本をこえる、城趾公園に満開の小彼岸（コヒガン）桜は、充分な美しさであった。

花を花に来て、花の中に坐り公園内に萩原井泉水のこの句碑があったが、まさに花・花・花である。

桐生倶楽部を早朝五時出発、それも特に混雑を避けウイークデーを選んだ。北関東自動車道伊勢崎ICを入り、上信越・長野・中央自動車道を伊那ICで降り、高遠城址公園に十時到着。混雑もさほどではないと思っただが、時間が経つに従って、次から次へ人波が押し寄せてくる。見廻すと、飲食の屋台、土地の物産や土産物の売店などが数限りなく並んでいる。花見を一時切り上げて、公園周辺の文化財・史跡を見ること

にする。
先ず高遠町郷土館。ここには田山花袋が自作の和歌を書いた屏風がある。高遠町宝に指定されていた。

たかとはは 山裾のまぢ
古きまち ゆきあふ子等の
うつくしき町 花袋
郷土館を出ると絵島囲み屋敷がある。大奥の実力者絵島が、役者生島新五郎との恋をとがめられ、高遠に流され二十八年間流人として暮した家である。

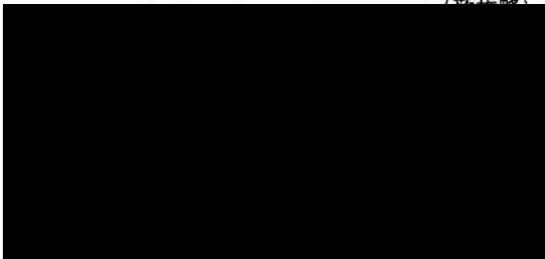
公園から可成の道程を下り、古い町並を歩いてみる。立派な格子戸や鬼瓦が目をはひく。伊藤園なる土蔵づくりの茶舗、杉玉のさがった仙醸というつくり酒屋など。
表通りから北へ抜けると建福寺。石段の両側に、高遠の石工（いしく）として名高い守屋貞活の手になる多数の石仏が並んでいる。花のほかにも結構見るべきものがある。
信州一の桜の名所、高遠を訪ねる四月例会は、参加者三十七名。みなさん桜に酔った一日だった。
(小池久雄記)

薫風の黒松山

歩く会の5月例会は13日、黒保根村の花見ヶ原から黒松山をめざした。麓では新緑の木々が、高さをかせぐにしたがって芽吹き季節へと逆戻りし、およそ2時間をかけてたどりついた山頂は、春まだ浅い装いだ。ここでゆったりと昼食をとり、展望を楽しんで下山。この日の参加者は8人、五月晴れに恵まれて心地よい汗をかいた。

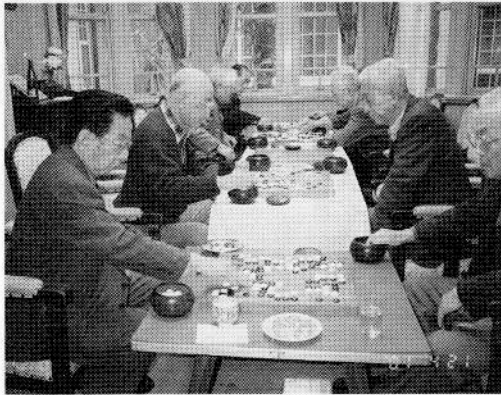


＝新入社員紹介＝



春の叙勲に輝く

平成13年春の叙勲で、2社員が受章しました。岡田昇さんが地方自治功勞で勲五等双光旭日章を、糸井京三郎さんが納税功勞で勲五等瑞宝章を贈られました。おめでとうございます。



囲碁部会が春の大会

恒例の春季囲碁大会が4月21日、倶楽部6号室で開かれ、腕自慢の10人が参加し、午前10時から夕方まで、熱い戦いを繰り広げました。

優勝は田村寛さん、準優勝は岡田光弘さん、3位は野田友治郎さんでした。

〈将棋大会〉

優勝 吉成 敏郎 準優勝 木村 俊一
(4月28日、6号室、参加者6人)

〈ゴルフコンペ〉

優勝 清水 邦彦 準優勝 上野 武男
3位 阿部 高久 ベスグロ 森田 良徳
ニアピン 清水 邦彦
(5月6日、桐生カントリー、参加者11人)

〈麻雀大会〉

優勝 亀田 和夫 準優勝 石井 省三
3位 飯山 清治
(5月12日、くすのき、参加者8人)

*上記4大会は文化祭協賛行事です。

桐生倶楽部はぐるま句会

三月

草霞親に寄り添ふ仔馬かな	久保田
子規庵の庭の草の芽踏むまじく	小池
吟行やイチゴほほばる土手ぬくし	遠藤
子の声も牛鳴く声もかすみ中	尾澤
雨あとの紅鮮かに牡丹の芽	本田
暖かや縁に動かず老母(はは)と猫	吉成
鹿(しし)おどし音も弾むや春の水	有阪
川曲がるまま草の芽の列曲がる	大槻
暖かや釣人ぬつと堤攀ず	下山
故郷の山川なべて暖かし	清水

四月

目覚しを止め春暁の浅眠り	久保田
手にとればすぐ吹いてみる風車	本田
群がりて日差し分けあふ桜草	小池
からからとわらべ地蔵の風車	尾澤
春暁や鉄路作業の声高く	下山
明暗を分け春暁の明け初むる	大槻
漕艇の声流る河岸桜草	吉成
風車不安といふも一未来	山田
春暁や名刺古き鐘の音	清水
春暁や鐘韻消えて夢うつつ	有阪

＝倶楽部だより＝

- 【4月】
 - ・写真部会 (3日)
 - ・月次会「花とワインとミュージック」(6日)
 - ・理事会 (9日)
 - ・行事委員会 (16日)
 - ・歩く会例会「コヒガンザクラの高遠へ」(18日)
 - ・春季囲碁大会(文化祭協賛) (21日)
 - ・はぐるま句会 (26日)
 - ・将棋大会(文化祭協賛) (28日)
- 【5月】
 - ・ゴルフコンペ(文化祭協賛) 於桐生C.C (6日)
 - ・理事会 (10日)
 - ・麻雀大会(文化祭協賛) (12日)
 - ・歩く会例会「赤城黒松山」(13日)
 - ・文化祭(18日～20日) 作品展
 - ・ガーデンパーティー (20日)
 - ・歩く会世話人会 (23日)
 - ・はぐるま句会 (28日)

【退社社員】 ・多胡 章 夫

社団法人 桐生倶楽部会報 第123号 2001年(平成13年) 6月発行 発行人 塚越平人 編集責任者 木村隆夫 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



パワー健在

うだるような厚さが続くこの夏も、桐生倶楽部歩く会のパワーは健在です。中央アルプス木曾駒ヶ岳を目指しました。一方屋内行事では、珍しい利き酒コンテストを開催。夏の楽しみ方が光った7月でした。



木曾駒ヶ岳を最高峰(2956m)とした中央アルプスは木曾川と天竜川の間を仕切る屏風のような山脈である。また高山地形としての代表的な景観をもっている。それは花崗岩の岩肌と花崗岩の風化による白砂、ハイマツの緑と高山植物が咲き乱れる風景によってである。

菅ノ台からしらび平(1661.5m)を経て千畳敷カール(氷河の浸食によってできた窪地)の終点駅(2611.5m)に参加者38名が午前7時前に着く。

宝剣岳を頭上にあおぐ千畳敷にてお花畑周辺散策組と登頂組に分かれ、午前7時16名で駒ヶ岳山頂へ出発。

背景に南アルプスの鋸、甲斐駒、仙丈の雄大な景色を見ながらカールを横切り急斜

面を登り約1時間で乗越浄土に着く。小休止のあとよいよ駒ヶ岳へ。広い稜線のゆるやかなアップダウンが続きコマクサ、ヒメウスユキソウ(エーデルワイスによく似た花)などを見ながら駒ヶ岳山頂に午前9時全員元気に到着。山頂の360度の展望を楽しむ。北アルプスの穂高山、乗鞍山、木曾御嶽山、八ヶ岳、南アルプスの山脈などのパノラマを楽しみながら軽食をとる。欲をいえば快晴でなかったのが残念であった。しかし千畳敷のお花畑(約80種)にての高山植物の咲き乱れる景色は見事であった。周辺散策組も登頂組もそれなりに十分満足した一日であったと思う。桐生倶楽部には午後7時頃全員無事に到着した。

宮地(秀)記



千畳敷のお花畑と木曾駒ヶ岳登山

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

古希という区切りありけり更衣	尾 澤
更衣わが子の背丈また伸びし	本 田
垂れし尾のままに幟の暮れかかる	大 槻
選ぶほど持たざる暮らし更衣	久保田
更衣地蔵も真白き涎掛け	吉 成
金婚やあうんの呼吸五月晴	有 阪
人住まぬ家に残りし幟竿	小 池
同窓会更衣して若がえり	清 水

六月

竹落葉代も替りて父の実家(さど)	尾 澤
あめんぼう跳ねて水輪の重なりし	本 田
水馬眺む水面に己が顔	吉 成
十葉の花よりほかの冥(くら)かりき	山 田
山裾の墓しずまりて竹落葉	押 見
里山の小流れ覆ふ竹落葉	久保田
古日記往時茫茫梅雨深し	小 池
身を任せ流れに浴いし水馬	清 水
天仰ぎどくだみの花匂ひ立つ	有 阪

= 倶楽部だより =

- 【6月】 ・歩く会例会(10日)
- ・理事会(11日)
- ・歩く会世話人会(18日)
- ・月次会「結核など含めた感染症あれこれ」(26日)
- ・はぐるま句会(30日)
- 【7月】 ・懇話会「桐生の都市づくりシリーズNo.1」(2日)
- ・理事会(10日)
- ・歩く会例会「中央アルプス千畳敷カール 宝剣岳・木曾駒ヶ岳」(21・22日)
- ・はぐるま句会(24日)
- ・月次会「あなたの舌は大丈夫?利き酒コンテスト」(26日)

【法人から個人社員へ】

コスモ - 久保田勝利

【退社社員】

清水宏康 下山洋一(逝去)



“舌好調”です 真夏の利き酒

月次会報告(7月)

ワインとパンの楽しい組み合わせで、これまで3回にわたって憩のひとときを提供してきた栗田、赤石両理事のコンビが、7月の月次会では趣向を一新し、題して「真夏の利き酒コンテスト」を開催した。

ビール、日本酒、ウーロン茶、ワイン、ミネラルウォーター、焼酎部門にそれぞれ3から5種の銘柄を用意。栗田さんの軽妙な語りで利き酒のコツを学びながら、次々とコップで運ばれてくる銘酒を口に含んでゆっくりと味わい、参加者は銘柄表に「これぞと信じる」舌の感触を書き込んだ。

あわよくば全問正解をと、ひそかに燃えた左党の思惑は最初のビールでもろくも崩れたが、それでも終わってみればなかなかの好成績。色や香りの確かめ方に大いなる自信をつけ、合間に味わう赤石さん手製のパンとの相性を楽しみながら、暑い真夏の夜はまたたくまに過ぎた。

(7月26日午後6時半、大広間、出席者30人)

社団法人 桐生倶楽部会報 第124号
 2001年(平成13年) 8月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



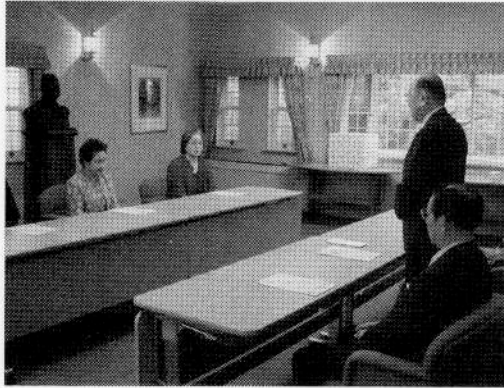
笠木 茂さん

回
想

精神文化が立ち上がった日

桐生倶楽部の会館が完成したのは大正八年。伝統的な機町の町に異国情緒を運び込み、モダンな精神文化が立ち上がった日のことを、少年時代の記憶として鮮明に焼き付けている人がある。社員最古参、笠木茂さん（88）にご登場いただいた。

（本記2、3面）



野間清治胸像 野間家から寄贈

桐生出身で講談社創設者、野間清治氏の胸像が9月4日、桐生倶楽部に寄贈されました。

胸像は市内新宿の野間定子さん(故人)方にあったもので、別館で行われた受け入れ式には倶楽部側から塚越平人理事長と、小池久雄、飯山清治の2氏が、また野間家からは野間静子さん、野間信子さん、野間善弘さんが出席しました。会館の建設にもゆかりの深い先達、4号室に末永く安置されることになりました。

モダンの調べ

その始まりは一面の田んぼから

桐生のまちに初めてともったパイオリン教室の灯は、かつて群馬県随一とうたわれる販売網を誇った魚問屋の老舗「魚萬」がルートである。

笠木パイオリン教室主宰の笠木茂さんは大正2年9月、その魚萬の4代目として本町五丁目の現在地に生まれた。

桐生はむかしの風情を残したまちとは言え、当時と比べればまさに隔世の感があると語る笠木さんだ。家の隣には見世物小屋があり、そこではさまざまなお出しもがあつた。「主役のニシキヘビが逃げ出して、大騒ぎになったことがあつてね」と、そんな懐かしい断片を拾いながら、記憶の糸

を通りの家並みへとたどる。「そうだなあ、あのころは高いといつてもせいぜい2階建て、いまの第一勧銀のところには赤煉瓦の建物があり、小学校3年生のときに金善ビルができてね、その2つが飛び抜けていたかな」。父親の笠木萬吉さんが倶楽部創立時の社員だった関係で、会館の建設の植音はつぶさに聞いた。そこは、通りのほんの少し東に入っただけなのに、あたり一面の田んぼだったことをよく覚えているといふ。

魚萬は、初代笠木作蔵さんが乾物、塩物を商った魚作がはじまりで、明治20年、2代目萬吉さんが創業した。両毛線が桐生・足利間で開通し、桐生駅ができたことで魚問屋となり、大きく躍進する。笠木さんの父親の代になると、事業はさらに拡大し、大正6年には魚市場の設立を手がけ、11年には相生村に製氷会社を設立。また東武新桐生駅と本町を

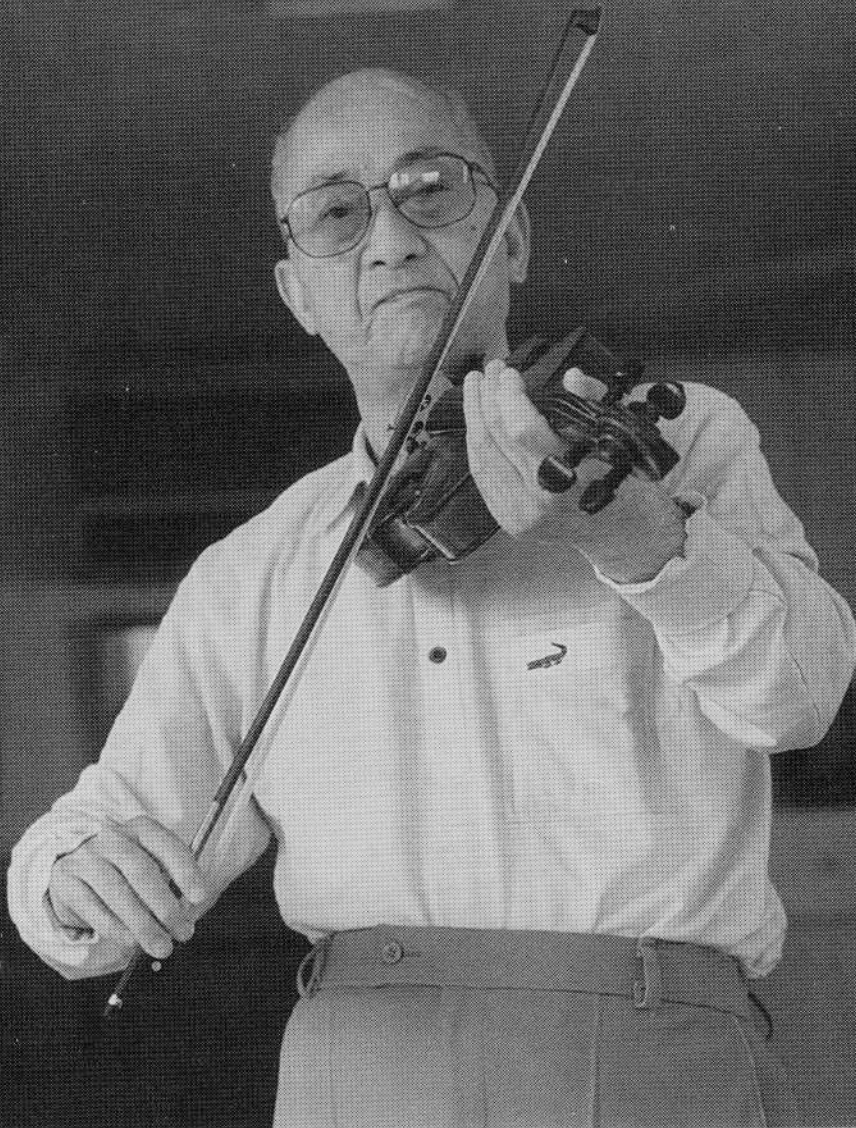
「稽古を」と頼まれたのか、笠木パイオリン教室の始まりとなった。お店の方はその後、小売りに変わり、残る従業員たちが営業を続けたが、昭和43年、のれんをたたんだ。しかし、パイオリン教室はそれから半世紀、夫人のせい子さんとの二人三脚で着実な歴史を積み重ねて、現在に至っている。

「桐生倶楽部の社員として、私はこれまであまり行事には参加してこなかった。戦後しばらくは会費を収めるのも苦しいときがありましたよ。でもね、いまはやめずにきてよかったなってそう思っているんです」。

会館が竣工したときの興奮は、いまも忘れない。「横浜に父の妹がいて、桐生は田舎ねって、よく言われていたんです。だからあのモダンな欧風建物が完成したとき、ほんとうにうれしくてね。おばに言つてやりました。「桐生はもう田舎じゃないよ、だって桐生倶楽部があるんだから」と胸を張つて」

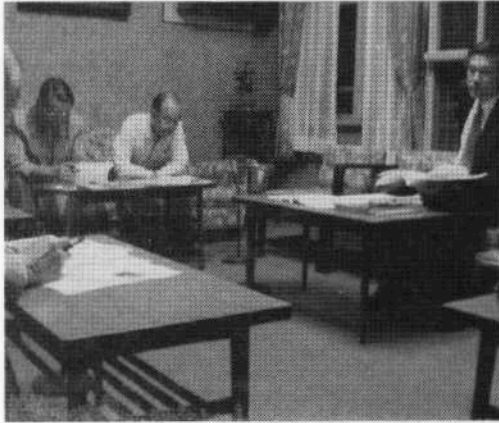
老舗の後継ぎとして、これといつて力を発揮することではできなかった。だが、パイオリンという心の栄養をこの町に持ち込んだ。その原点でひととき輝く「桐生倶楽部」の会館である。

会館は笠木少年の誇りだった



結ぶバス路線の運行にも力を注いでいる。遠く北海道から、魚萬の魚は列車貸切でやってくる。笠木さんがその父の後を継いで店に入ったとき、住み込みの従業員だけでも25人いたというから、大きな商売だった。ただ、人には向き不向きがある。と笠木さんは言う。後継者として育てられたものの、ほとぼる活気の中に身を置くより、少年時代から親しんだバイオリンの音色が好きだった。後に日本のバイオリン界の大御所となる、若き日の鈴木鎮一の薫陶を受けた。戦争の影響がしのび寄るとともに、商売の勢いも次第に縮小され、昭和18年に父親が亡くなつて名実ともに4代目となり、後を受け継いだ。倶楽部の社員となったのもこの年である。

やがて戦争が終わり、これからの生き方を思い巡らしているとき、「鈴木鎮一の弟子」といううわさを聞きつけた疎開の人から「ぜひ子どもバイオリンのお



桐生の向かう道 長尾経済部長が講話

桐生倶楽部懇話会の「桐生の都市づくりシリーズ」の第2回は9月27日、市の長尾昌明経済部長を迎え、午後7時から2号室で催された。

長尾部長はまず、第4次総合計画に基づく将来都市像のなかで、経済部の仕事となるファッションタウン構想の促進と、産学官民による「まちの中に大学があり、大学の中にまちがある」推進協議会について、こんごの取り組みを語った。

ファッションタウン構想に関しては、そこに発生するさまざまな提言を吸収し、民間の活動を積極的に支援していきたいとし、「物づくりの歴史文化都市」「体験工房都市」「産業文化景観都市」「女性が輝く都市」「コミュニケーションする都市」の5つの戦略を基本にすえ、産業観光ビジョンを実現していきたいと述べた。一方、産学官民の連携では、すでに地場産業振興センターを交流の拠点としてその活用をはかっているが、大学関係者にはもっとまちへ出てもらい、市民にはもっと大学を利用してもらうよう、こんごさらに環境整備に力を入れたいという。ベンチャー企業育成のため国際会議や学術会議を開催できるように、また情報拠点の整備など、支援体制を整えていかなければならないものは多いようだ。

そのほか、工業、商業、農林業、観光など広範にわたってその施策を解説。ただ近年の不況と国の財政事情から地方自治体の置かれる立場は年々厳しくなっている。地方交付税、あるいは道路財源などがどうなっていくのか、骨太の改革の動向は注意深く見守っていると述べた。

七月

書を曝し中の一節口ずきむ
西鶴は伏宇の多し曝書かな
着る事もなき子の晴着虫干しす
山百合を揺らし気動車止まりけり
鬼百合の咲いて人気(ひとけ)のなき農家
沙羅の花空の高みへ咲きそめる
乳母車日除けの奥の寝顔かな
店先の日除けを借りて友を待ち
細雪日陰でめくる曝書かな

本 田
小 池
久 保 田
尾 澤
押 見
大 槻
有 阪
清 水
吉 成

桐生倶楽部はぐるま旬会

八月

蒔きもせぬ朝顔一輪櫃の外
朝顔の咲きしほとりに誠歩のばす
法師蟬味噌焼く炉端灯ともりて
赤城より四方にひろがる初秋かな
朝顔や櫃根となりて色模様
絵日記の朝顔大き昔かな
御手前の茶の湯の香り秋の風
飼い猫に眠る場所なき猛暑かな
初秋や名も無き草の花を見し

吉 成
本 田
久 保 田
大 槻
有 阪
尾 澤
清 水
押 見
小 池

= 倶楽部だより =

- 【8月】
 - ・理事会(10日)
 - ・歩く会世話人会(21日)
 - ・はぐるま旬会(24日)
- 【9月】
 - ・野間清治氏胸像受け入れセレモニー(4日)
 - ・歩く会・月次会(9日)
 - ・裏磐梯五色湖散策 中止
 - ・理事会(17日)
 - ・歩く会世話人会(18日)
 - ・はぐるま旬会(27日)
 - ・懇話会「桐生の都市づくりシリーズNO.2」(27日)

【退社社員】

- ・吉田 博 次
- ・関谷 恵 一
- ・NTT桐生営業所
- ・岩崎 國 廣
- ・白石 泰 元
- ・出口孝二郎
- ・林 学 達

社団法人 桐生倶楽部会報 第125号
 2001年(平成13年) 10月発行
 発行人 塚 越 平 人
 編集責任者 木 村 隆 夫
 印 刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



羽仁五郎と野間清治

二人の融合は桐生があつて初めて成し得た

羽仁五郎生誕百年記念講演

講談社出版研究所社長

朝倉光男さんが秘話

講談社の現代新書から生まれた羽仁五郎さんの『私の大衆』の編集者、朝倉光男さんが11月26日、桐生倶楽部で講演した。人民史観の羽仁さんと、大衆文化を標榜した野間講談社、朝倉さんは周囲から「羽仁さんは講談社では書かないだろう」と言われたという。だが羽仁さんは引き受けしてくれた。「羽仁さんはそういうセンチメンタリズムは学問から排除したいという方でしたから、決して口にはしませんでしたが、ともに桐生に生まれ、同じふるさともつという思いが、気持ちの中にあつたのではないかとそんなふうに考えています」。名著の誕生秘話である。

久保田さん、旅語り

10月の月次会は医師久保田裕一さんを講師に招き、題して「ベトナム、カンボジアに遊ぶ」。今年のゴールデンウィークを利用して赴いた旅のみやげ話を、参加者はベトナム風料理を味わいながら楽しんだ。

ツアーに参加しても一人旅になってしまうことが多いという、いっふう変った旅を好む久保田さんだが、今回も気楽な一人旅に。めぐり歩いた史跡の話や、過去の旅行の逸話をたっぷり披露してくれた。(10月19日、二階大広間)



旅のシヨット 女のポスターで、何が幸いするかわからないという思い出のシヨットをかわすのは、かつトだ。

あうという点で、伝え聞く野間清治像とあい通じるものがあつたという。

葉山を訪問し、食堂の一角で話を聞き、筆記した。通つたのは三回、話はその

まま文章になつた。登場する人名は二百二十人、この

うち姓だけで名が出なかつたのはたつた一人で、あとはすべてフルネームで語り

続け、いっどこで会い、どんな話をしたのかまで、メモなしで伝えてきた。驚く

べき記憶力の逸話である。桐生の話もよく聞かせて

くれたという。ミルクをたつぷり入れたコーヒを好み、新聞は毎日、隅から隅

まで読む。孫に対して厳しい祖父だったが、握手をしてくれた手はとても柔らかくて温かく、その人柄が

しのばれたと、懐かしそうに語つていた。

羽仁五郎生誕百年記念講演

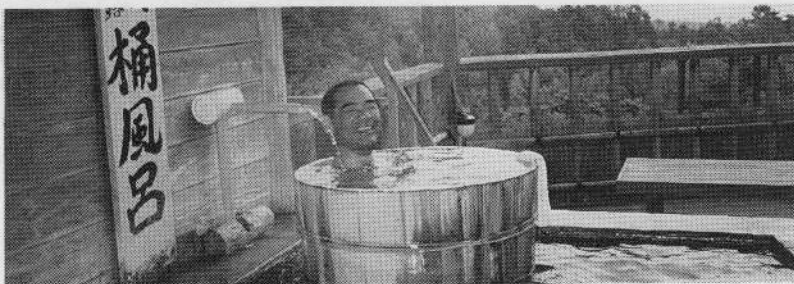
驚くべき記憶力

講演社出版研究所社長の朝倉光男さんが羽仁五郎さんの書籍編集を企画会議にかけたのは、講演社に入社四年目、一九六三年のことだった。承諾してくれた理由は、同郷であるという隠れた思いとともに、現代新書の基本方針(講演社らし

話はそのまま本になつた

くないもの、教養書であること、後世に残るもの)に賛成してくれたからではないかと振り返つた。羽仁さんの初対面の印象は「人を見下すことをしない人」、若い編集者にもきちんと対応してくれて、人を信用する、互いを尊重し

初の幹事役 狩野喜範さん



菱野温泉

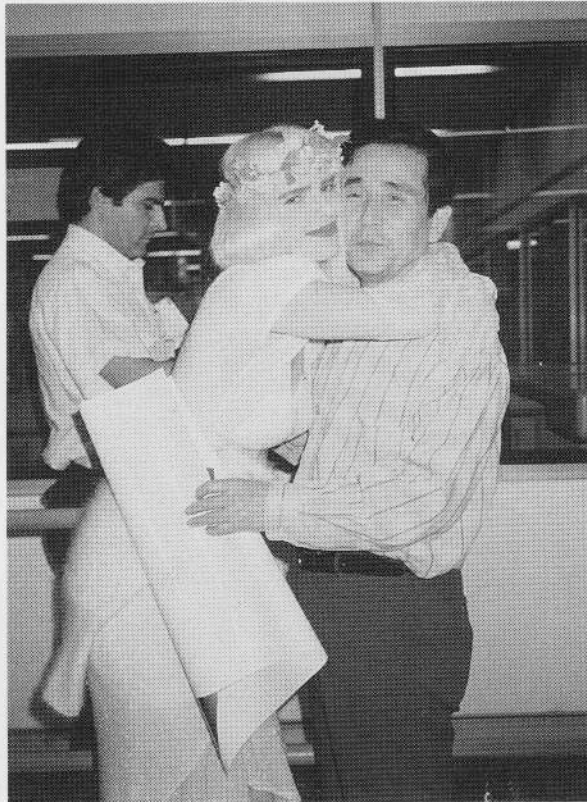


仙人岳、虎の尾山などのピークの総称を黒斑山とよんでいる▼午前5時30分まだ暗いなか桐生倶楽部を、参加者18名で出発する。車坂峠には午前8時少し前に着く。みごとに自然庭園をつくる車坂峠を、午前8時に出発。高度をかせぐに従つて、背後に北アルプスが姿を現わす。槍岳、穂高、剣岳、立山など、右手側には富士山、蓼科山、八ヶ岳などがはつきりと望める▼黒斑山頂には午前10時15分に到着。第二外輪山の雄大な前掛山を目の前にながめながら休憩する。最高の上天気の中の美しい景観に我を忘れるほどであった▼下山は中のコースを通り全員、元気に車坂峠に着く。小休止のあと小諸の菱野温泉、常盤館にて入浴をする。旅館のロビーから登山電車をつかって展望露天風呂に行く。標高一〇五〇mの浴槽から、八ヶ岳、蓼科山、富士山、佐久平を一望しながら入浴する▼桐生倶楽部へ午後4時少し過ぎに到着、上天気のなか、楽しい一日であった。

(宮地秀吉記)

月次会報告
(10月)

思いがけない
はプレゼントされた彼



叙勲、県功勞で2氏に榮譽

平成13年度の秋の叙勲と県功勞者で倶楽部の2氏が受章、表彰されました。酒類業振興功勞で矢野昭さんが勲五等双光旭日章、県表彰は功勞功勞の佐羽秀夫さんです。おめでとうございます。

＝新入社員紹介＝ (敬称略)



阿倍安雄

桐生市錦町3丁目1番39号
阿部登合資会社
昭和6年1月26日生
TEL44-2424 FAX44-2426



石関博

桐生市仲町1丁目11番19号
昭和10年7月12日生
TEL44-8224



根津紀久雄

桐生市天神町3丁目11番13号
群馬大学教授
昭和14年2月11日生
TEL30-1535 FAX30-1599



岡田一男

勢多郡新里村新川1068-4
桐生市市民文化会館館長
昭和6年1月26日生
TEL40-1500 FAX46-1126

てイタリア政界を賑わ
わせた国会議員チチヨ
リーナさん。といつて
も、状況には少し説明
がある。昭和63年9月
ロマンチック街道の旅
に出た久保田さんがフ
ランクフルト空港の同
じロビーに入ってきた
彼女を見かけ、写真を
とろうよと走りより、
床にあった旅行カバン
につまづいて倒れこん
だのがちょうど彼女の
前。「大丈夫」と抱き
起こされて、このシチ
ューションになった。
添乗員がさかさずパチ
リ。手に持っているの
はプレゼントされた彼

黒斑山

歩く会の
10月例会



黒斑山からの絶景

黒斑山(二四一四m)と
はかわった名前である。そ
の由来はオオシラビソが過
密生育などの原因で、縮枯
れ現象が見られることから
来ているようだ。群馬県の
嬭恋村と長野県の小諸市の
県境にあり、浅間山の第一
外輪山である。一般にはト
ミの頭、黒冠山、蛇骨山、



鑑賞会報告

美術部 保倉一郎

午前7時32分新桐生より渡邊・保倉夫妻の3名でかけ、浅草から京急線で横浜へ着き、横浜に住み、この展示会の5ヵ所に散る会場の案内を調べてもらった稲川敏子と合流して専用バスで「みなとみらい」の会場へ向かった。

バス停から雨の中を入り口に向かう間も野外展示の作品が見られた、「パシフィコ横浜」の裏側に屋上から吊るされる巨大なグラスハッパーの彩色像は、雨と風のため危険とされこの日は展示をはずされた。

事前に保倉は下見をしたから、一応の事は知っていたが、4人で連れ合せて見ながら改めて驚愕する。なにしろ美術展とは言うものの一般的な概念とは飛躍的に違っていて、画布に描かれた「絵」は一枚も無く、映像と音響と動くオブジェやインスタレーションと称される建築物や数メートルの落水をとまなう床の上の水の広がる流水光景、果ては実際の貨車一台に機関砲の弾痕で穴だらけにして中から照明と音声を発してアピールする、オノ・ヨウコの作品もある。

インスタレーションなのは、強烈な実態的なボルノ作品とストーリーをもった展示や、草間弥生の制作で、鏡を使った無限に広がる無数の金属球体を散りばめた超複雑な虚像空間のショッキングだろう。壁に幾つもの穴をあけ、覗くと隣の室内が見える?……と言う当たり前にしてふざけたシーンがあるが、これとて段々に落ちついて来ると、それなりに普遍性のある感情表現があり、新しいジャンルの発見とスタイルの発明の中にも、しみじみと感じる「もののあわれ」があるものと気付く。

私達は「モダン・アート」の信奉者と自負していながら、コンテンポラリー・アートについて行けない現実を知って唾然とした!

「歳トツタナー」と感じながら会場を出て、遅い昼食とも早い夕食ともとれる食事を中華街で楽しみ、帰りの電車の中でも「横浜トリエンナーレ」の話題が止まなかった。残念なことに、会場での写真の撮影は許されなかった。

11月10日 ☆参加者 渡邊 保・保倉一郎・保倉栄子・稲川敏子

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

こおろぎの止めば誰ある草の木戸 久保田
 ビルの窓幅一間の月見かな 吉成
 唐きびの焼けるを待ちて道の駅 尾澤
 一句得てやうやく寝つく虫の夜 本田
 鈴虫や競ひて闇をふくらまし 有阪
 頂きし鈴虫籠に落ちつけず 清水
 鈴虫の声細りゆく忌日かな 小池
 鈴虫のひげ振り合ひて逢瀬かな 大槻
 大利根の今宵の渡し月見船 遠藤

十月

秋時雨厨の音の遅き朝 久保田
 大銀杏黄葉(もみじ)地を染め天を染め 本田
 草の実や門に錆浮く工場跡 尾澤
 喧嘩の消えて山門初紅葉 大槻
 秋時雨手編する妻黙し居り 有阪
 石器持つ忠洋の像草紅葉 清水
 行く人も来る人もあり紅葉山 小池
 草の実をつけて駆けこむランドセル 押見
 紅葉晴白一線の飛行雲 吉成
 ふる里の草の実怪変りなく 有阪

= 倶楽部だより =

- 【10月】
- ・理事会(10日)
 - ・歩く会例会「黒斑山と菱野温泉」(14日)
 - ・月次会「ベトナム・カンボジアに遊ぶ」(19日)
 - ・歩く会世話人会(22日)
 - ・はぐるま句会(25日)
 - ・秋季囲碁大会(27日)

- 【11月】
- ・行事委員会(9日)
 - ・歩く会例会「鳴神山へ」(11日)
 - ・理事会(12日)
 - ・文化活動委員会(19日)
 - ・月次会「羽仁五郎生誕百年記念講演」(26日)

- ・はぐるま句会(27日)
- ・歩く会世話人会(27日)
- ・写真部会(28日)

社団法人 桐生倶楽部会報 第126号
 2001年(平成13年) 12月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



「工学部のために」

二大学の 合併協議 理事長、改めて倶楽部の立場

平成14年度定時社員総会

「群大工学部は私たちのまちの大学です」。将来にわたっていつまでもこのまちとともにあるように、その実力をいっそう高めていくために私たちにもできることがあると、塚越平人理事長は1月30日に開かれた平成14年度定時社員総会のあいさつで、こう語りました。

群大と埼大との合併協議など、にわかな

動きに関連して、学校の創設に深くかかわっている桐生倶楽部の立場をあらためて述べたものです。

総会では今年度事業報告と決算および監査報告、また新年度事業計画と予算案など3議案がすべて承認されたほか、減少する社員の増強運動がふたたび目標として掲げられました。

桐生のあるべき姿めざす



平成14年度新年互礼会

先の見えない景気の低迷、アメリカの同時多発テロ、アフガン問題など、新世紀のさまざまな課題を持ち越しつつ迎えた平成14年。桐生倶楽部の新年互礼会が1月4日に開かれ、あいさつに立った塚越平人理事長は改めて、こうした時代だからなおのこと、継続的に、足元から積み上げていくことが重要だと語りました。

なかでも、悲観的観測が多い経済に関し、ユーロの登場によって欧州にできた経済的なグループは、日本にとって新しい市場ができたというプラスの要素であると日銀関係者の見方などを紹介しながら、「こうした仕事にこそ中小企業があたるべきで、そこではと

りわけ職人の重要性が増す」と強調。桐生で展開されている産学官の共同体のさらなる充実に期待を寄せ、またファッションのまちなどを応援しながら、桐生のあるべき姿を目指していきたいと、新年度の目標を掲げました。

新春にふさわしく、この日の互礼会には観世流桐生観友会による謡曲の出し物が用意され、寺田美代子さん、小倉有紀子さん、山根照代さんの小鼓と、坂本能理雄さん、寺田章さん、池田博保さん、渡辺一也さんの地謡で「鉢木」「羽衣」の二曲を披露。祝宴に花を添えました。(2階大ホール、参加者61人)



戦跡訪ね、平和を願う



20世紀を回顧し大太平洋戦争の史跡を訪ねて平和への願いを新にしようという3回シリーズの旅も今回が最終回となりました。午前5時45分桐生を出発、8時半横須賀市夏島に到着。この地は終戦まで旧帝国海軍の基地だった処で戦後は主に自動車関連の工業団地となっています。ここに点在する「明治憲法起草の地記念碑」「海軍航空隊発祥の地記念碑」「予科練発祥の地記念碑」を順次訪ねた後、

10時海上自衛隊横須賀地方総監部へ到着。かつての「横須賀鎮守府」の機能を果たす海自の司令部ですが、旧鎮守府建物は今では米軍大太平洋艦隊の総司令部として入り江一つ隔てた米軍基地の中に在ります。(当初米軍基地内のヴェルニーと小栗上野之介の史跡を訪ねる予定でしたが、アフガン戦争の為残念ながら基地への立ち入り見学は果たせませんでした。)海自広報担当菅原准尉さんの案内で接岸中のイージス艦隊を見学の後、海岸伝いに船越基地へ移動、停泊中の護衛艦「しらゆき」に乗船して艦内を見学。10人ずつ5つの班に分かれ夫々乗込みの下士官が懇切丁寧な案内をして下さいました。旧海軍の巡洋艦クラスの船ながら、戦闘(防衛?)能力は大型戦艦並みの装備を持っていることに56年の時の流れを感じました。案内係を勤めてくれた内の一人桐生出身の正田海士長さんはビジター参加の金森さん(元高校教諭)

横須賀の旅 歩く会・美術部協賛



の教え子で、偶然にも数年ぶりの師弟再会を果たし、参加者一同から喝采を浴びました。下船後、艦を去る時は乗組員の方々が舷側に並んで「帽を振れ」で送って下さり、感激ものでした。

昼食は本町(通称ドブ板通り)の料亭で海軍カレー。海軍草創期に兵員の栄養確保の為イギリス海軍の指導でレシピを作ったとか。舞鶴と横須賀で本家争いをしています。食後は船で猿島へ渡り旧海軍の砲台跡・レンガ造りの弾薬庫跡などを見て回り、三笠公園へ戻って日本海海戦の旗艦三笠を見学、東郷平八郎の偉業に触れました。

帰路横浜美術館で明治初期に活躍した陶芸家・宮川香山の回顧展を見て午後8時半桐生帰着。小春日和の日曜日、有意義な一日を過ごしました。

アフガンの緊張した状況を日々テレビで知らされる私たちにとって、国際紛争が決して他人事では無いことを実感させられた今回の基地訪問でした。

この原稿を書いている最中、歩く会世話人代表・藤井龍人さんの訃報に接しました。懐かしい思い出の数々は筆舌に尽くせません。博識でいつもにこやかなジェントルマンだった藤井さんを偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(村田 記)



楽しみ山盛り 恒例クリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が昨年12月8日に開かれた。

聖書朗読や賛美歌の合唱、ミニコンサート、またおいしい料理やお菓子、クリスマスプレゼントなど、盛りだくさんの楽しみが用意され、子どもたちにたいへん人気のある催し。ミニコンサートは昨年に続き、須永由紀子さんのピアノ演奏で、関口睦海さん、愛海さん母娘が歌を披露。明るく飾り付けられた2階ホールは、歓声もまじえ、にぎやかな雰囲気包まれていた。

(参加者61人)

歩く会、初登り

歩く会1月例会は、新春恒例により吾妻山登山(平成14年1月13日)です。吾妻公園駐車場に9時集合し、先ず昨年暮に急逝されました会長藤井さんの御冥福をお祈りし全員で黙祷を捧げました。新体制の初めての例会にもかかわらず、事務局の長尾さん高草



木さんはじめ29名の方々の御参加を戴き、天候にもめぐまれて新年にふさわしく幸先よい山歩きのスタートを切る事が出来ました。9時15分に歩き出し、10時10分には全員山頂に立つ事が出来ました。20分程休憩の後、女吾妻村松峠から宮本町に下り、11時40分「そば一」に到着。昼食会の楽しい一時を過ごし流れ解散となりました。

(後藤 記)

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

十二月

釣堀にふえし小春の竿の数	祝電の言葉を選ぶ小春かな	小春日や園長さんの縄電車	木の葉散る真只中に妻の添ふ	今朝の冬持華の処方もらいけり	小春日や行先きめぬ途中下車	コーヒーの豆挽く香り小春かな	花蛇の群れて八手の咲くを知り	限りある命いとしむ小春かな	山小屋の戸締りかたく冬に入る	旗垂らし今日をかぎりの小春かな
本 田	小 池	尾 澤	遠 藤	大 槻	吉 成	有 阪	押 見	久 保 田	清 水	山 田
戦乱の響耳打つ寒さかな	冬枯や吾が町むかし機の町	寒き朝また麿葉の店ひとつ	北国の駅に三つ四つ小坐蒲団	鳥一羽とびたつ沼の寒さかな	冬枯れの木に電飾のまたたゆる	冬枯れの木に電飾のまたたゆる	冬枯やふる里遠しこともふと	冬枯れの夜空を流る星の群	冬枯れの夜空を流る星の群	遠き孫来るかこぬかと蒲団干し
大 槻	尾 澤	小 池	久 保 田	清 水	本 田	遠 藤	吉 成	有 阪	有 阪	有 阪

= 倶楽部だより =

- 【12月】・クリスマス祭 8日(土)
- ・歩く会例会 9日(土)
- 美術部協賛「横須賀、昔と今を訪ねて」
- ・理 事 会 10日(月)
- ・はぐるま句会 21日(金)
- 句会後 豊田館にて忘年会
- 【1月】・新年互礼会 4日(金)
- ・理 事 会 11日(金)
- ・歩く会例会 13日(日) 吾妻山登山
- ・歩く会世話人会 21日(月)
- ・はぐるま句会 28日(月)
- 句会後 味感にて新年会

【退社社員】

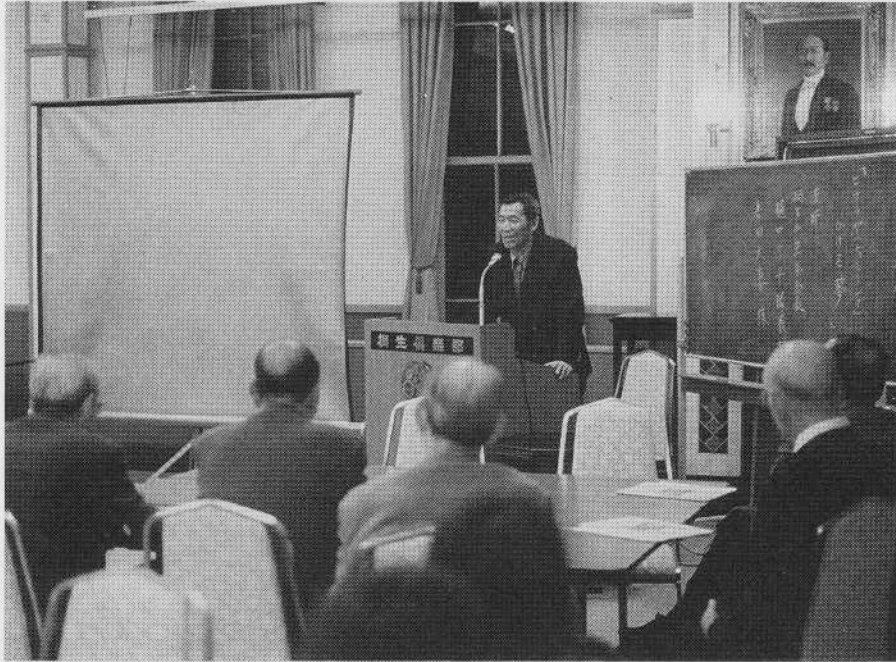
- 阿部 光作(逝去) 藤井 龍人(逝去)
- 武井 正充(逝去) 五十嵐 正雄(希望退社)

社団法人 桐生倶楽部会報 第127号
 2002年(平成14年) 2月発行
 発行人 塚越 平人
 編集責任者 木村 隆夫
 印刷 刷 ツポノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



チヨモランマの夢にエール

月次会報告(2月)

桐生山岳会、来月アタック

2月の月次会は、この春に世界の最高峰チヨモランマに挑む桐生山岳会の応援企画として19日開催され、樋口宗平会長がその夢の道のりを語った。

隊員11人、最高齢は67歳、著名な登山家今井通子さんも参加する今回の遠征は、同会の結成以来半世紀、冬山を登り除々に力をつけながら、「きつといつか」と、胸の中で温めてきた計画だった。「キリマンジャロやヨーロッパの山は個人でも行けるが、チヨモランマは違う。テントやロープや酸素など、日本から送り出す荷は約1トン。何から何まで金がかかります。でも今回は、年金をもらっているような人たちまで援助してくれてほんとうにあり

樋口宗平会長が講演

がたい」と語った樋口会長は、成功の条件として高度障害の克服、天候の安定をあげた。しかしその点は「日本一の戦略家、8千メートル峰の豊かな経験など、知力と体力と技術、心強い仲間が集まっています」という。

またこの日は吉田文江隊員が、昨年登頂に成功した東北隊のビデオを上映しながら登山ルートを解説。館内では支援を目的にしたTシャツ販売なども行われた。小池久雄副理事長は「桐生市民に対する勇気づけになります」と話し、同会の壮大な挑戦にエールを送った。

登山隊員はすでに日本をたち、5月のアタックをめざして現在活動中だ。

桜の下でワイン会



月次会報告 (3月)

3月の月次会は、味わい企画としてすっかり恒例となったワインの楽しい勉強会だ。観測史上最も早い桜の開花と重なって、まずは中庭に出て、満開の桜の下で乾杯。ときおり吹く花散らしの風が、いっそうの趣を添えた。

粟田詔三さんをアドバイザーに、赤石清安さんの手作りパンを味わいながらワインを楽しむこの催しは、会を追うごとに人気を呼んで、今回が5回目。乾杯のあとはいつもの2階大広間に移り、フランスワインを中心に粟田さんが味わい方のコツを伝授。57人が参加した。

桜前線の動きをにらみつつ、いつものワインとパンに観桜の会もつけようという欲張り企画を見事に成功させたのは木村隆夫、赤石両理事で、ラ

イトアップに映える満開の花に、参加者たちも満足そうだった。(3月30日)

マンサクの石尊山へ

歩く会の3月例会は、マンサクの咲く展望の山歩き。好天に恵まれた10日、石尊山から深高山を散策し、16人が参加した。



歴史と自然のほとりを散策

歩く会・館林多々良沼へ

2月10日(日)の歩く会は白鳥の越冬地「多々良沼」とそこに隣接する「彫刻の小径」「群馬県立館林美術館」等を訪れました。午前8:30倶楽部集合、参加者35名にて乗用車10台に分乗、9:30史跡「日向の義民地蔵」到着。国道122号に面した30坪ほどの敷地に高さ1.5メートルほどの地蔵菩薩を奉った質素な廟です。

綱吉が館林城主だった頃(1675)、年貢徴収の役人が不正を働き農民が大変疲弊し、農民たちは救済を求めて藩主に直訴をしました。その結果願いは叶えられた代わりに、首謀者の18人がこの日向の刑場にて斬首処刑されました。29年の後、近隣の農民が義民の冥福を祈って地蔵を建てて供養したのがこの義民地蔵です。二百年後の明治33年、足尾鋳毒事件の被害農民が鋳業停止を政府に訴えようとして警官隊と衝突、「川俣事件」となりますが、この辺りは反権力の気風の強い土地柄のようです。

9:50袈裟沼着。白鳥が飛来越冬するのは、正確には多々良沼の西に位置するこの袈裟沼です。今年の飛来数は百羽を超えたとのことですが、この日観察できたのは子供のコハクチョウが50羽程。昼間は親鳥は餌を求めて他所へ働きに出ています。多々良沼に浮かぶ「弁天島」は北条氏所縁の史跡、七百年前の鎌倉幕府の終焉を偲びました。美術館の駐車場に車を置いて「彫刻の小径」を散策。室町時代、上杉氏の家臣がこの地方の統治者であった大谷休泊が防風保安林として築いた松林が、五百年の時を超えて引き継がれ、今では30基以上の彫刻を配したプロムナードとなって市民の憩いの場になっています。暗黒の室町時代に新田開発や灌漑など農政事業家として様々な偉業を遺した休泊は、中世日本史において大変意義深い存在と言えます。心を和ませて呉れる穏やかな表情の彫刻作品の数々を参加者一同大いに楽しみました。松林の一隅に松本夜詩夫の句碑が在りました。

「一月の 夕日沼越ゆ め松原」。

11:45美術館到着。ここは昨年(平成13)10月、県内2番目の美術館として開館、黒田亮子さんが



館長を務めておられます。建物は「水と緑」をテーマに、大阪芸術大学の高橋勲一名誉教授が設計しました。エントランスホールで主任学芸員の遠藤さんから美術館の概要・展示作品の説明などを受けた後、三々五々美術鑑賞をして流れ解散。当日は近代美術館(高崎)所蔵の中から群馬県所縁の作家の作品を集めた企画展、フランソワ・ボンポンをはじめとした館林美術館所蔵の彫刻、ピカソ・ムンク・ルオー・ウォーホル等の版画など盛り沢山の展示作品を楽しみました。布製の造形作品には皆さん一様に深い関心を示していました。別館は南仏の田舎家をイメージして造ったワークショップで内部にボンポンのアトリエが再現されています。出入口の木製大扉とトイレ水道蛇口の陶器の化粧はフランス製でとてもお洒落でした。美術館内のレストラン、イル・コネットで食事の後、皆さん3:00頃までには帰郷。この日この冬一番の寒気が来ていて肌を刺す様な寒さの中でしたが、文化の香り高い有意義な休日を過ごしました。

(村田記)

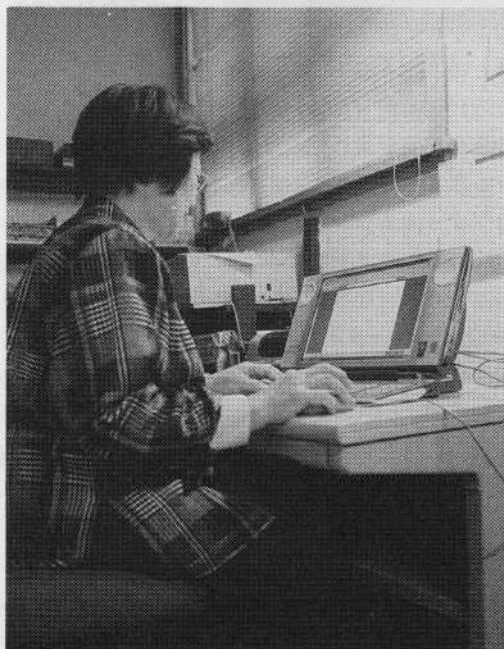
|||| 新入社員紹介 ||||



事務局にパソコン

3月はじめ、事務局にパソコンが導入されました。折々の書類や名簿づくり、行事案内の作成など、すでに実践的な活用が始まっています。担当の長尾洋子さんはパソコン歴10年、高草木淑子さんはこれを機にパソコンを習得しようと、自宅に同じ機種を購入し、特訓中とか。「社員の方々からも、わからないことがあったら遠慮なく相談して、と力強い応援をいただいています。頑張らなくちゃ」と意欲的だ。

メールによる通信も可能になった。アドレスは次の通り。 kiryuphf@sunfield.ne.jp



桐生倶楽部はぐるま句会

一 月

星冴ゆる過疎の村々寝しずまり	本 田
時差なおし降りる異国や月冴ゆる	久 保 田
唐突にハングル文字の年賀状	小 池
水仙を活けて恩師を待つ座敷	大 槻
訪へば水仙一輪出向かへり	押 見
添へられし一句が嬉し賀状かな	尾 澤
薄き縁切れそで切れぬ年賀状	吉 成
陽だまりに群れて遊ぶや野水仙	有 阪
年毎に受けし賀状の数は減り	清 水

二 月

薄氷に朝の陽の彩(いろ)千枚田	本 田
子どもらの手話の明るき春電車	小 池
検診の結果待つ日や浅き春	尾 澤
咲き初めし鉢の出し入れ浅き春	久 保 田
薄氷をよけて浮子糸おろしけり	吉 成
新築の木の香乗せ来る春の風	有 阪
背踏にて薄氷を切る巨鯉かな	押 見
鳥よぎる武蔵丘陵春浅し	大 槻
旧友の文読み返し春浅し	清 水
春浅し筆にふくめし朝の水	山 田

= 倶楽部だより =

- 【2月】
- ・歩く会例会 [多々良沼周辺散策 館林美術館] (10日)
 - ・理事会 (12日)
 - ・歩く会世話人会 (18日)
 - ・月次会 (ヒマラヤマにかける夢) (19日)
 - ・はぐるま句会 (28日)

- 【3月】
- ・歩く会例会 (石尊山から深高山へ) (10日)
 - ・理事会 (11日)
 - ・歩く会世話人会 (11日)
 - ・はぐるま句会 (29日)
 - ・月次会 (満開の桜の下で乾杯!) (30日)

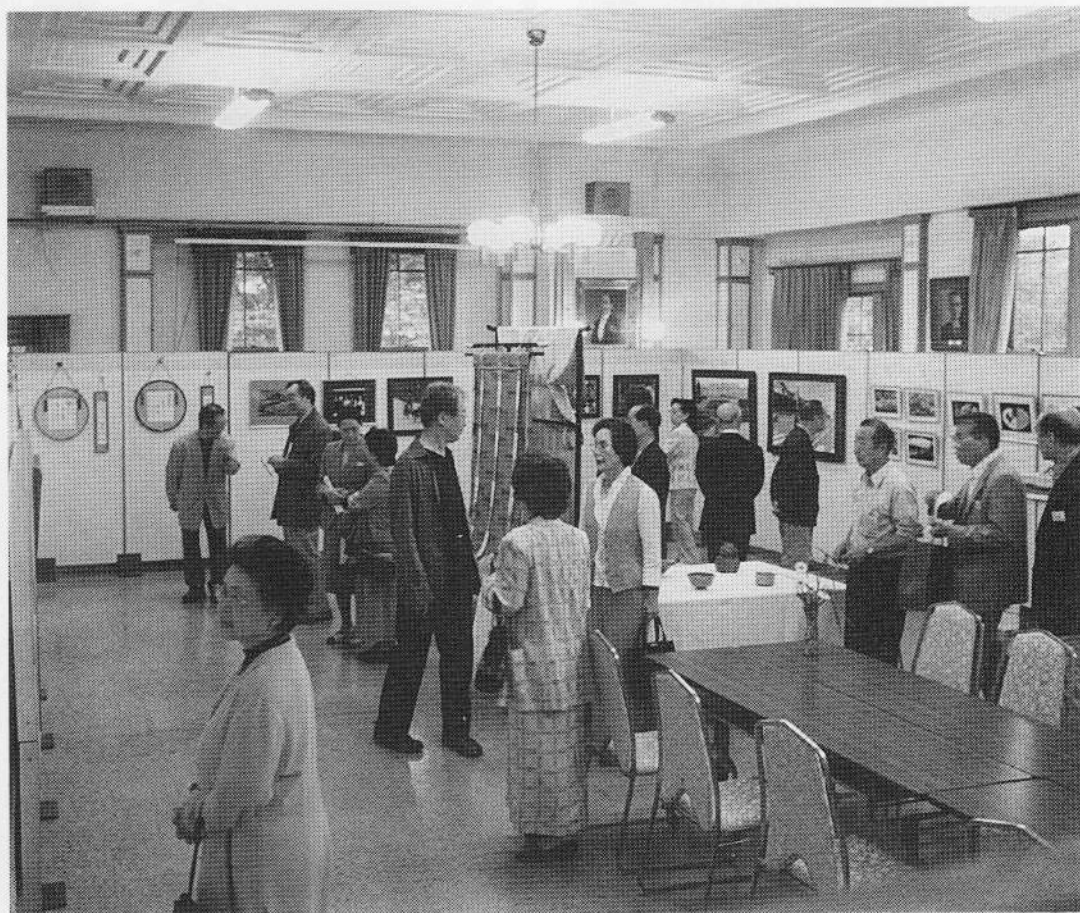
【退社社員】

笹川 勝正・稲森 幸雄・永田泰之助
アラ産業(株)・金子 匡男・小島 国次

社団法人 桐生倶楽部会報 第128号
2002年(平成14年) 4月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



華やぐ春の文化祭

桐生倶楽部の第28回文化祭が5月17日から19日までの3日間、開催された。

絵や写真のほか、やきものや刺繍、俳句など、社員やその家族の力作がずらりと並んだ2階大ホールは、ふだんの重厚な雰囲気から解放たれてぐっとはなやいだ装いとなった。

最終日には大勢の人たちがここを訪れ、それぞれの作品を前にして感想を交しながら鑑賞にふけていた。

この文化祭のために前日から準備に入っていた人たちが心配していたのが最終日の天気。予報どおりにわか雨となり、楽しみにしていた新緑のガーデンパーティーは直前で建物内へ会場変更を余儀なくされた。だがそこは雰囲気づくりのベテランがそろい、会場を部屋に分散させたことであって人の往来が活発になり、前年にも増したにぎわいとなっていたようだ。

文化祭 点 描

ガーデンパーティー開会の席上で、社団法人日本善行会桐生支部長を務める塚越平人理事長が、同会創立65周年特別表彰として金章を受賞したことが、小池副理事長から報告された。



恒例のミニコンサートは、大城梨花さん（フルート）と大城杏花さん（ピアノ）姉妹の二重奏。クラシックの小作品や映画音楽、童謡など、なじみの曲に息のあった演奏を披露した。

ガーデンパーティーの人気のひとつ、おそば屋さん。雨をさえぎるひさしの下に構えた暖簾、終始人垣が絶えなかった。



（後藤記）

原の尾根に飛び出すと眼前に大きな富士山を見る事が出来、感動する。▼左前方には三ツ峠山頂はすぐ近く。歩きはじめてから2時間足らずの11時15分山頂に立つ事が出来ました。山頂からの展望は春がすみで富士山以外の遠くの山々は残念ながら望む事は出来ませんでした。ゆつくりと昼食をとり、記念写真をとったりして12時に下山を始め13時半には次の目的地恵林寺に向ってバスは発車、新御坂トンネルを抜け甲府盆地に入り花の盛りを過ぎた桃畑の中の道を塩山市の恵林寺へ▼重要文化財の赤門、信玄公の墓、名高い日本庭園等を足早に見学して15時半バスは雁坂トンネルを抜け、みちの駅「みとみ」大滝「花園」等に立寄り秩父路を抜けて予定通り19時30分全員無事帰桐いたしました。

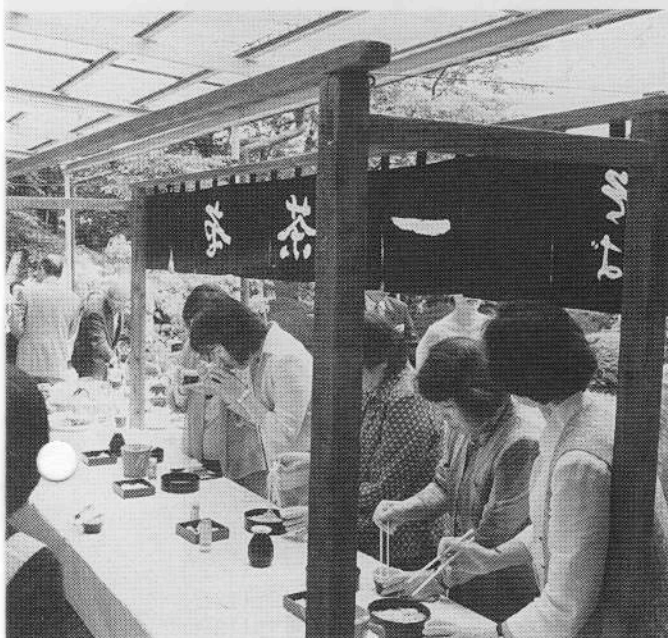
月次会報告(4月)



記憶のデザインと
ガーデニングを学ぶ

4月の月次会は23日、リサイクル素材をデザインによって生かしながらまちづくりや庭づくりなど多方面で活躍している星野理さんが、「記憶のデザインとガーデニング」と題し、講演した。

記憶のデザインとは、リサイクルされる以前の製品の記憶の断片をとどめた素材、または既存の製品の部品をそのまま再利用し、デザインによって新しい価値を与えるという考え方。こうしたコンセプトによって作り出されたさまざまなガーデニンググッズの実物を示しながら、色の変化をつける視、葉の音や鳥のさえずりを生かす聴、花の香りでやすらぐ嗅、果実や野菜の味、そして触れていやされるハーブの話など、五感で楽しむ庭づくりのコツを伝授した。また、思い出のある花木や好きなものを一種類でもいいから植える、こうした手法もガーデニングには効果的だと話していた。



三ツ峠山へ

「歩く会」4月例会は4月14日(日)に富士山を眺めるのに一番の展望台、三ツ峠山(一、七八六m)登山と武田信玄ゆかりの乾徳山恵林寺参詣の旅です。当日は最高のハイキング日和に恵まれました▼バスは定刻5時に参加者22名を乗せて発車、早朝という事もあってか車の流れも順調に東松山ICから関越道、圏央道、中央高速と乗りついで、高坂SA、谷村PAにて小休止をとりながら、河口湖ICが近くなると真正面に五合目位まで真白い雪におおわれた富士山の勇姿を、また車窓右側には本日これから登る、山頂にアンテナ群の林立する三ツ峠山を眺める事が出来ました▼河口湖ICから「御坂みち」に入り9時に三ツ峠登山口に、バスは林道に入れないのでここでバスを降り到着。身支度を整えて歩き出す。さすが有名な山だけあって各地からの登山者の車が道端に多数見られる▼登山道は、はじめはせせらぎの音、小鳥の鳴き声を聞きながら、道端に咲く早春の花「マンサク」「キブシ」「アブラチャン」等の黄色の花々を楽しみながらのジグザグの急登を約1時間、カラマツ林の中のベンチのある休憩所で一休み、大木の間からは山頂のアンテナ群も見える。カラマツ林を抜けいくらか登りもゆるやかになると霜どけの泥んこ道となり難行するが、

ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =



県総合表彰に輝く

塚塚誠氏(県議会議員)が2002年度県表彰を受賞しました。県政功労。おめでとうございます。

文化祭協賛 各部会大会結果

囲碁部会春期大会が平成14年4月20日(土)倶楽部6号室にて行われました。

午前10時集合、午後5時迄、丁々発止と鳥鷲を交えました。久し振りの顔もあり楽しい1日でした。入賞者は次の通り。(参加者8名)

〈囲碁大会〉

- 入賞者 優勝 岡田光弘 (5勝1敗)
- 準優勝 吉成敏郎 (3勝3持碁1敗)
- 3位 福永儀一 (3勝2敗)
- 〃 金谷利男 (3勝2敗)

〈ゴルフコンペ〉

- 優勝 上野武男
- 準優勝 新見祐三
- 3位 森田良徳
- ベスグロ 新見祐三
- ニアピン 新見祐三
- 〃 森田良徳
- 日時 平成14年4月21日(日)
- 場所 赤城カントリークラブ
- 参加者 7名

〈将棋大会〉

- 優勝 木村俊一
- 準優勝 田中義弘
- 日時 平成14年4月27日(土)
- 場所 桐生倶楽部6号室
- 参加者 8名

〈麻雀大会〉

- 優勝 亀田和夫
- 準優勝 丸山正一
- 3位 養田隆
- 日時 平成14年5月10日(金)
- 場所 パスタタイム
- 参加者 8名

三月

桐生倶楽部はぐるま句会

朝市の歳並べて国訛り
今朝摘みしわらび商ふ朝市女
傘の柄を妻に傾げる春の雨
春雨や夢のふくらむ花の種
寂聴の源氏に残る春の塵
春塵の中にポストの赤くあり
春塵や碁盤と碁筋をそつと拭き
若き声パレコート春埃

久保田 本 尾 大 小 清 吉 有
田 澤 槻 池 水 成 阪

四月

門口に盛塩二つ春の宵
漕艇の声流る土手春の草
園児らも野点の客に春の草
山住みの一步出ずれば春の草
惜春や五月日記に老いたり
鉢花の萎えし小庭の春惜しむ
臘夜や秘仏を守る村七戸
挨拶をすぐ返す子ら春の道
飼猫のつと出かけ行く春の宵
日の出待つ色かんばしき春の草

遠 藤 吉 成 小 池 本 田 久 保 田 尾 澤 大 槻 有 阪 押 見 水 清

= 倶楽部だより =

- 【4月】
 - ・理事会 (10日)
 - ・歩く会例会「三つ峠」 (14日)
 - ・歩く会世話人会 (15日)
 - ・春季囲碁大会 (20日)
 - ・月次会「記憶のデザインとガーデニング」 (23日)
 - ・行事委員会 (25日)
 - ・写真部会 (26日)
 - ・将棋大会 (27日)
 - ・はぐるま句会 (30日)
- 【5月】
 - ・理事会 (9日)
 - ・麻雀大会 (10日)
 - ・歩く会例会「浅間隠山」-中止 (12日)
 - ・歩く会世話人会 (13日)
 - ・倶楽部文化祭 (17~19日)
 - ・ガーデンパーティー (19日)
 - ・はぐるま句会 (30日)

【退社社員】

- 柿沼 洋一 黒田 豊
- 星野 弘次 千木良明義(逝去)
- 小倉 一郎(逝去) 石井 省三(逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第129号
2002年(平成14年) 6月発行

発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



高山の夏を極める 歩く会例会 八方尾根へ

桐生倶楽部の歩く会7月例会は百花繚乱の八方尾根。一行46人は大型バスで28日、一路白馬へと向かいました。

全員がゴンドラで第一ケルンに到達した後、自由散策となり、およそ20人が八方池をめざしました。急登の尾根は歩き始めからガスが巻いて展

望はなく、八方池に着いても、湖面に映る白馬の姿はありませんでした。しかし、こうした天候の激しい変化こそが2000メートル級の山なればこそで、数々の高山植物との出会いなど、足元の楽しみに包まれた夏の日でした。

(写真 後藤久夫さん)

語りの魅力じっくりと



月次会報告 (6月)

伝承、民話を堪能 おはなしの学校

6月の月次会は19日開かれ、おはなしの学校代表の江原佳子さんら4人のメンバーが「お話と出会って」と題して講演した。

この「おはなしの学校」は、語りの文化の普及を目指しながら、次代を担う子どもたちに、語り継がれた「おはなし」を届けたいという思いで開設された。2000年10月には桐生で「全日本語りの祭り」を開催するなど、地道ながら活発な活動を展開している。

語りを通して地域の学校、社会教育施設への奉仕、また養成のセミナーなど、語りにてあえる街をめざして行っているふだんの活動を、静かにさりげなく紹介した江原さんに続き、森野幸子さん

が「カッパ飴玉」、羽田野孝栄さんが「天狗の力くらべ」、厚木由美子さんが「仁田山の機織娘」と、地元に伝わる民話を実践的に披露した。

「子どもが13の年にカッパに命を奪われる」という神様のおつげを忘れずに、水遊びに行く子どもに飴玉をもたせてやった父親の配慮で命をとられずにすんだ父子愛の物語、亡くなった母親の機織のリズムを教えてくれた白滝神社機音石の伝承など、心のこもった語り口調に参加者たちは引き込まれていった。

米国テネシー州のジョーンズボロという小さな町にすむジミー・ニール・スミス氏によって提唱された「語り」の大切さ。同地では毎年10月に「世界・語りのフェスティバル」が開かれ、各地から数万人の語り手や関係者がここを訪れているという。桐生もそんなふうに語り手が集うまちをめざせたらと願っています、と江原さんは話していた。

(19日、2階大広間)



アプト旧線、めがね橋まで

碓氷峠をハイキング 歩く会6月例会

信越本線、横川駅をおりると少し寒い。今日の行程は往復約10キロである。

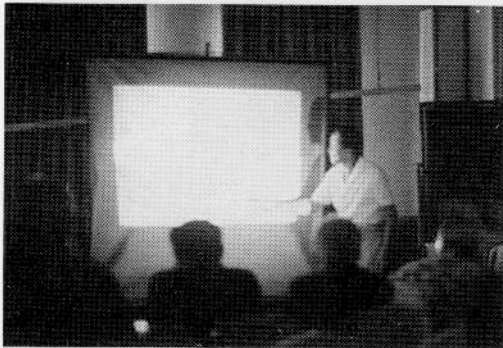
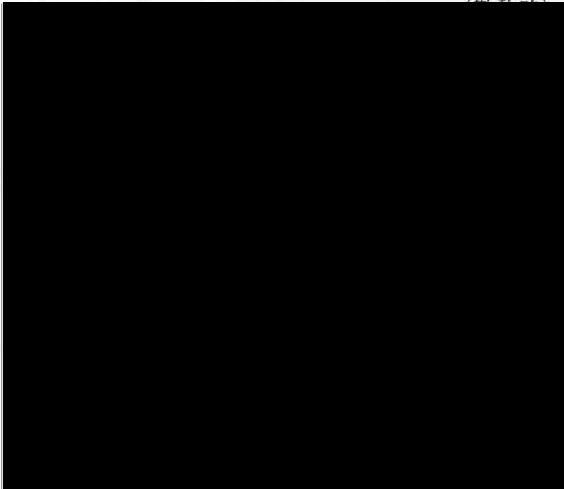
鉄道唱歌の「汽笛一声新橋を……」のわずか半年後（明治33年11月）勢多郡東村花輪生まれの石原和三郎が「上野唱歌」をつくる。その中で「妙義の山を仰ぎつつ坂本よりはアプト式、26個のトンネルをくぐれば信濃路、越後路」とうたっている。

アプト式線路（急坂を上下する時すべりを防

ぐため軌道の中央に歯車を設置）の廃道を碓氷第三橋梁「めがね橋」往復の歩行である。碓氷関所跡からすぐにアプトの道に入る。五つのトンネルをすぎ、目的のめがね橋に着く。時代の変化を肌身に感じる行程である。

帰路碓氷湖に寄り、峠の湯に入る。歩き疲れた後の風呂と乾杯は日常では味わえない楽しみである。参加者17名、予定より早く桐生駅に着く。（6月9日、宮地記）

ようこそ倶楽部へ
= 新入社員紹介 =



お疲れ様、桐生山岳会

月次会で樋口会長ら報告

7月の月次会は、世界一の山チョモランマに初遠征した桐生山岳会の報告会。樋口宗平会長のほか、吉田文江さん、貝瀬寿雄さん、遠征に同行した桐生タイムス社の袁崎昭子さんが、2ヵ月に及ぶ山行の様子を豊富なスライドをまじえながら披露してくれました。

出発前に倶楽部でその意気込みを語った樋口さんは、登頂者一人という結果は失敗とも成功ともいえないけれど、期待にはこたえきれなかったとあいさつし、寄せられた多くの支援に改めて感謝を述べました。過酷な環境下で体力の限界に挑戦した人々。その土産話はどれも新鮮で、参加者たちはヒマラヤに思いを馳せ聞き入りました。

一人のけが人もなく大事業は終了しました。山岳会のみなさん、ごくろうさまでした。

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

奥入瀬の若葉の色の水を掏む	久保田
座を正し一服を待つ薄暑かな	本田
禅寺やそばを打つ間の若葉風	小池
金精は山肌白し谷若葉	吉成
絵手紙に描いて笥炊かれけり	尾澤
髪形を変えて街へと妻薄暑	大槻
せせらぎの川ぞ恋いしき薄暑かな	清水
柏餅名代の店は旧街道	有阪

六月

花菖蒲解けしばかりの濃紫	本田
置きざりの田舟朽ちたり花菖蒲	尾澤
花菖蒲年増船頭笠深く	久保田
藤椅子で星降る空を待ちにけり	吉成
藤椅子も藤鏡台も華燭の荷	遠藤
藤椅子や苦労話をほつほつと	大槻
茂り葉にかくさされている道しるべ	清水
老杉の茂りを笠に道祖神	有阪
茂りより蕊の降りくる朝詣で	小池

= 倶楽部だより =

- 【6月】 ・歩く会例会 [碓氷峠・アプト旧線] (9日)
- ・理事会 (10日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・月次会 (お話と出会って) (19日)
- ・はぐるま句会 (28日)

- 【7月】 ・理事会 (11日)
- ・月次会 「世界の最高峰に挑戦して」 (24日)
- ・歩く会例会「八方尾根」 (28日)
- ・はぐるま句会 (29日)

【退社社員】

岸 稔

社団法人 桐生倶楽部会報 第130号
2002年(平成14年) 8月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



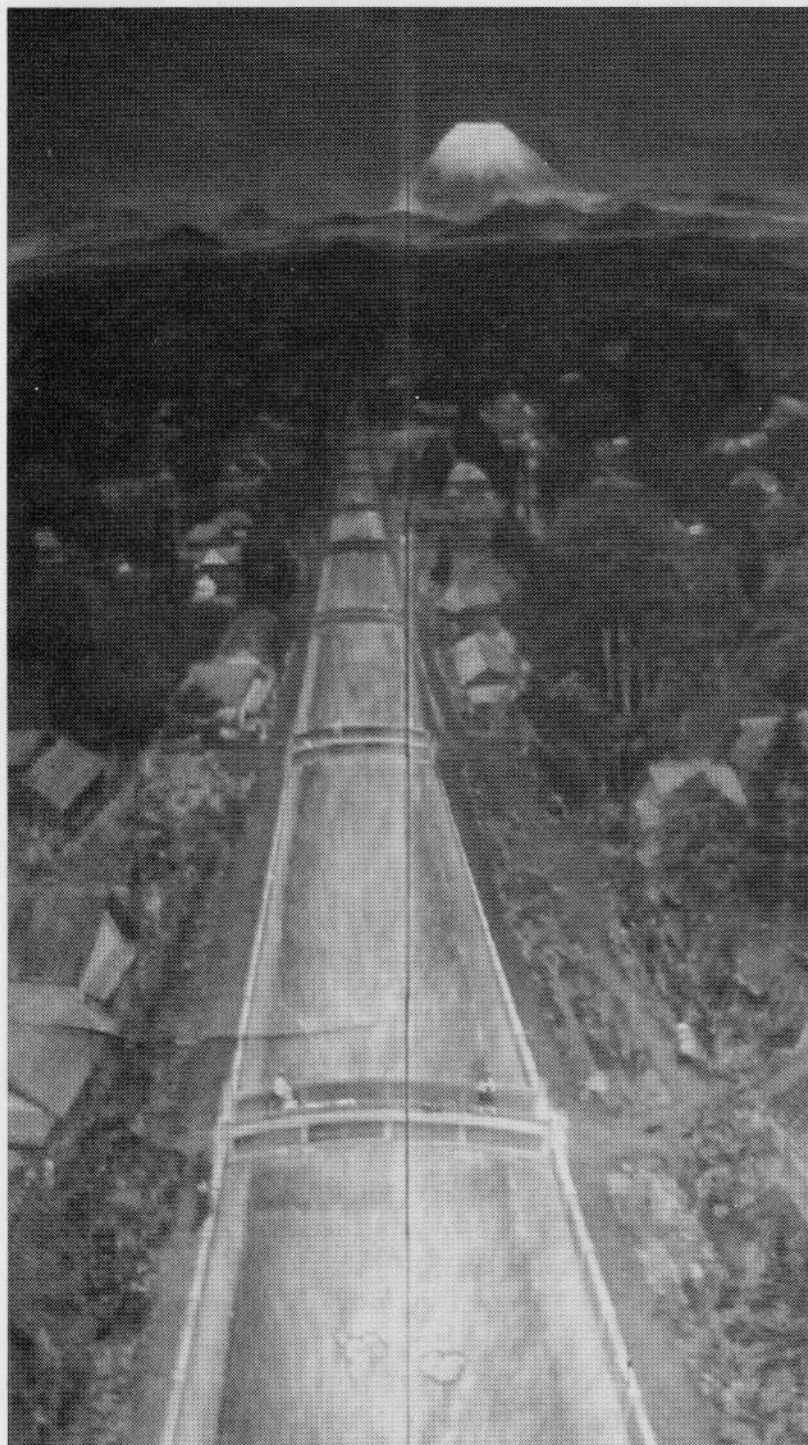
好天に恵まれた9月の月次会「上高地ハイキング」

秋、心身躍動の上高地

散策や美術鑑賞に心誘われる季節、心身の躍動感が秋と共に高まってきたようです。歩く会が担当した9月の月次会は上高地。募集開始早々にバスの定員に達し、キャンセル待

ちも出るほどの人気となりました。そんな秋の特集号。見開き面には、会館内で出合える絵画から、5点を紹介してみました。

秋の紙上ギャラリー



「伝・玉川上水の図」宝泉（四号室）

調和

会館内の各部屋に、さ
いるか、ご存知ですか。
3点、4号室に4点、6
2階大広間の入り口に1
点（歴代理事長の肖像を
作品となっています。

大広間にひときわの存
南画家として活躍した岡田
代表作のひとつといわれ
の「伝・玉川上水の図」
すが、作者に関する記録
もに歳月を重ね、洋風の
もしています。



「海に



彩り



「つづみを持つ芸子」 牧島要一（1号室）

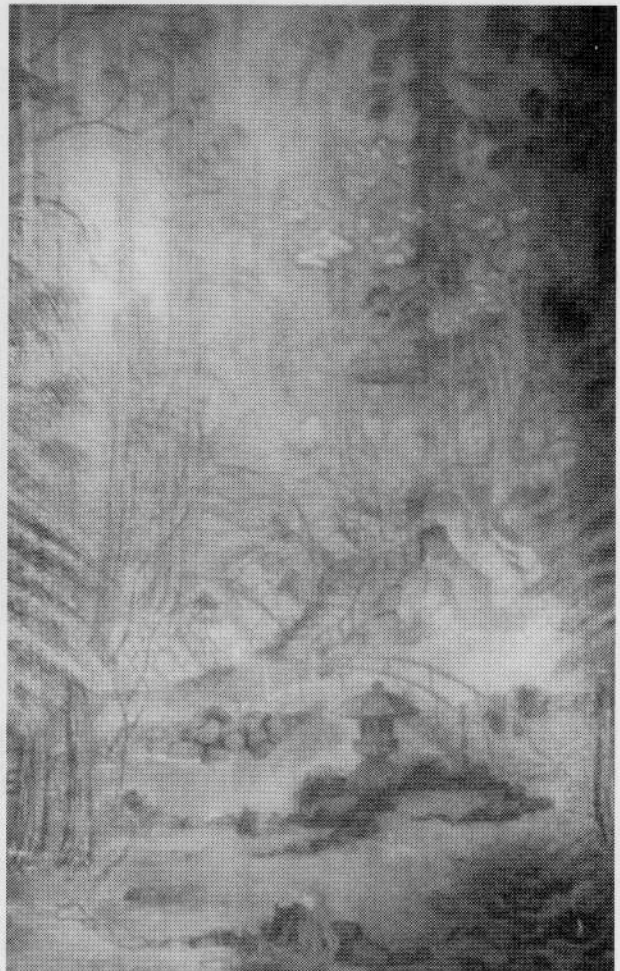
倶楽部の美術

て何点の絵画が飾られて
1号室に4点、2号室に
2点、別館に2点、
点、そして大広間には2
除く）あり、全部で18

在感を示す仙境の風景は、
日青峰画伯の「香山新涼」。
ています。また、4号室
は、昭和初期の屏風絵で
はありません。会館とと
部屋に不思議な調和をか



掛井五郎作品（別室）

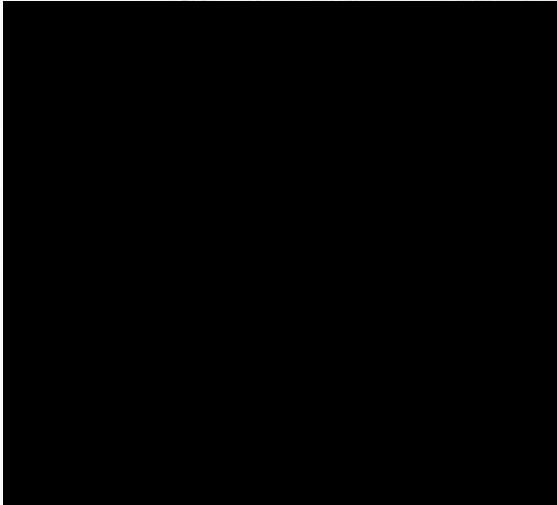


「香山新涼」 岡田晴峰（2階大広間）



「生きる」 内田安彦（6号室）

＝ 新入社員紹介 ＝



すばらしい一日

上高地ハイキング

参加者40名、午前5時大型バスにて桐生倶楽部を出発、心配された天気も上高地に近づく程に良くなり一安心、釜トンネルを抜けると車窓から、焼岳、穂高連峰がくっきりと姿を表し全員の歓声が挙がった。

一部のグループは大正池で下車、残る全員は9時少し過ぎにバスターミナルに到着、記念写真を撮ったあと各自の体力に合せ附近を散策する人、田代橋から河童橋までの人、更に足をのばして明神池往復組と分かれ、それぞれ、ナナカマドの紅葉、赤や黄色に色づき始めた木々の澄みきった梓川の清流、聳え立つ霧の湧き上る穂高の山々など、上高地ならではのすばらしい一日を存分に味わう事が出来た満足のいく旅でした。

事故もなく、高速道の車の流れも順調で予定より早く19時30分桐生倶楽部到着。(後藤 記)



七月

百日紅作務衣の僧の足白く	久保田
地蔵さま笠を阿弥陀に炎天下	尾澤
日時計が正午を告げをり炎天下	本田
炎天の幕列少しづつ進む	大槻
落慶の山門高く百日紅	遠藤
巴里祭を待たで帰国の娘かな	小池
炎天や眼鏡のすみの白き船	吉成
どの家も百日紅の花盛り	清水
日焼顔急ぐプールや百日紅	有阪

桐生倶楽部はぐるま旬会

八月

十叩き一つを買へる西瓜かな	本田
八尾には眠らぬ胡弓盆の月	久保田
無口の子教へてくれし盆の月	小池
谷川の岸に寄り来る落し文	尾澤
母眠る里山円し盆の月	遠藤
そよ風に吹かれしままよ落し文	清水
せせらぎに西瓜を沈めバーベキュー	大槻
薪能山の端のぼる盆の月	有阪
踊の輪ゆるみて本丸盆の月	吉成

＝ 倶楽部だより ＝

- 【8月】 ・ 歩く会世話人会 (6日)
 - ・ 理事会 (12日)
 - ・ はぐるま旬会 (29日)
 - 【9月】 ・ 歩く会世話人会 (10日)
 - ・ 理事会 (11日)
 - ・ はぐるま旬会 (26日)
 - ・ 歩く会・月次会 (29日)
- [上高地ハイキング]

【退社社員】

岡田 実

社団法人 桐生倶楽部会報 第131号
 2002年(平成14年) 10月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツポノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



ボージョレ・ヌーボー 月次会 解禁日に合わせワイン会

フランス赤ワインの新酒「ボージョレ・ヌーボー」の解禁に合わせ、月次会恒例のワイン勉強会が11月21日、2階大広間で開かれた。

アドバイザー栗田詔三さんの軽妙な解説と赤石清安さんお手製のパンの組み合わせはもうすっかりおなじみだ。この日は、ボージョレ・ヴィラージュ・ヌーボー、ヴァンドペイ・ギャールなど3つの新酒を含む6種のワインが用意され、香りを

楽しみ、飲み比べ、赤に合うライ麦パンを味わいながら、参加した約40人が、ゆったりとおいしい秋の夜のひとときを過ごした。

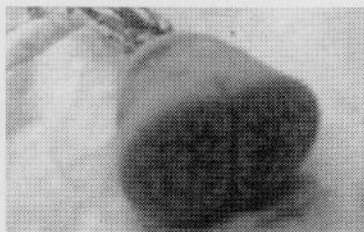
不思議な植物リトープス

月次会報告 (10月) 島田保彦さんが講演

10月の月次会は28日、財団法人進化生物学研究所嘱託・群仙園園主の島田保彦さんが、石に外観を擬態している珍しい植物「リトープス」について講演した。

島田さんは南アフリカ周辺に生息するリトープスを長年にわたって研究し、新種が発見されるとその名前をつけるほど、国際的にも活躍する第一人者。さきごろも調査のために南アフリカのプリエスカ地方を訪ねた。リトープスは2枚の葉からなる高度多肉植物で、赤や白などの石に擬態するため、葉緑体は内部にあり、表面は光が通過できるように透き通っている。

島田さんは今回の南アフリカ、さらにはナミビアで見聞した生活事情や風景の話をスライドを交えて紹介し、資料として持ち帰ったリトープス・ホッケリーを実際に解体してみせ、珍しい構造を説明。参加者たちは初めてみるその姿に「とても不思議な形だね」「ずいぶん水が含まれている」「ゼリーみたいで食べたくなるね」などと、目を輝かせ喜んでいた。



擬態植物リトープス





根本山、白根山で健脚ぶり —— 歩く会、秋を満喫 ——

歩く会は10月13日、標高2,577mの日光白根山をめざし、参加者28人のうち21人が登頂。また11月10日には根本山、十二山の逍遙を楽しんだ。

桐生川源流と根本山

宮地 秀吉

根本山(1199m)は足尾山地に属し、十二山、熊鷹山、野峰山と桐生川上流域を馬蹄形に囲む山地の最高峰である。地質は粘板岩、砂岩で山の西側は急傾斜であり、東側はゆるい傾斜となっている。山頂部にはブナ林、ツガ林がある。

根本山という名の由来は、役の行者小角がこの山に登って根本山と命名したといわれ、また富士山から東北を望むと瑞雲の根方(ねもと)にこの山が見られたからだとう説がある。

その根本山に私たち12名の参加者が桐生倶楽部を午前7時に出発。予定より30分早く登山口に着く。天気は晴天だが風が寒い。桐生川源流の

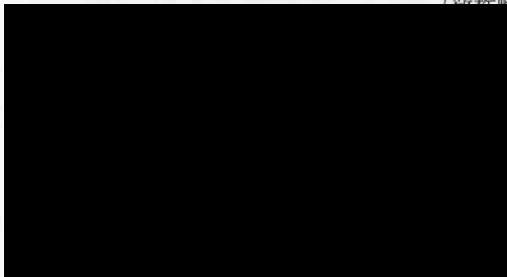
沢沿の小径に入る。根本信仰の盛んなころの痕跡を随所に見ながら沢を詰める。お籠堂からは狭い沢になり鉄はしご、鎖などに頼り根本山奥社に着く。礼拝のあと連続10本の鎮り場を登る。根本山で展望が開けるのは、ここだけである。背後に吹雪の日光連山を見る。根本山山頂直下の十字路にて小休止。山頂には行かず十二山に直行する。根本山頂は展望が悪いためである。昼食を十二山の日だまりでゆっくりと取る。

天保2年(1859)渡辺崋山も10月18日根本山に登る予定が雨で中止と毛武遊記に記されている。当時、根本信仰が盛んであったことがわかる。安政6年(1859)橋本直香が「根本山飛渡里安内」を刊行するほどであった。

古い歴史をもつ根本山に別れをつけ、私たち全員元気に倶楽部に予定より30分早い午後3時に到着する。楽しい一日であった。

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



3 氏に荣誉 褒章・叙勲

2002年秋の褒章と叙勲がこのほど発表され、3社員が受賞の荣誉に輝きました。産業振興の功績で日野昇さんが藍綬褒章、業務精励で金子宗吉さんが黄綬褒章に、また叙勲では教育研究功労で倉林俊雄さんが勲三等旭日中綬章を受章しました。受章者には新年互礼会で銀盃が授与されます。おめでとうございます。



写真部が撮影会

写真部の撮影会が11月17日に行われ、4人が参加した。桐生を午前6時に出発し、栃木県の雲巖寺から八溝山、烏山町をめぐる午後5時半に帰桐した。

漁火はゆれて無月の越の海
戸口まで来ては返して秋の蝶
それなりに祀りし膳の無月かな
碑の文字を読み離れず秋の蝶
お遍路の列を追いかけ秋の蝶
街路灯ぼっかり浮かぶ雨月かな
秋の蝶翅を上げしまま果てし
追伸を書きつづかぬ無月かな
石地蔵の裾にまつわる曼珠沙華
義貞の拳兵の塚や曼珠沙華
叢に紛れて消えし秋の蝶

九月

桐生倶楽部はぐるま句会

久保田 本 尾 小 吉 有 大 山 清 遠
森 藤 水 田 槻 阪 成 池 澤

青春のリングの歌に生きし日よ
行く秋や我が影長き土手の道
色鳥の枝のゆれみし寒の赤し
藤村の詩を今更に林檎かな
妻の留守顔白が来て雀来て
行く秋やもとめし新書読まぬまま
行く秋の瀬音しみ入る竿仕舞
行く秋や砂場に埋もる色バケツ
木洩れ陽のなかを色鳥見え隠れ
行く秋やなじみの宿のにぎりめし

十月

久保田 本 遠 小 大 吉 有 尾 清
森 藤 田 池 槻 成 阪 澤 水

= 倶楽部だより =

- [10月] ・歩く会例会 (13日)
- ・理事会 (15日)
- ・歩く会世話人会 (16日)
- ・月次会 (28日)
- ・はぐるま句会 (31日)

- [11月] ・懇話会 (8日)
- ・歩く会例会 (10日)
- ・行事委員会 (12日)
- ・理事会 (14日)
- ・写真部撮影会 (17日)
- ・月次会 (21日)
- ・歩く会世話人会 (25日)
- ・はぐるま句会 (28日)
- ・囲碁秋季大会 (30日)

[退社社員]

野村 滋・平野 平四郎

社団法人 桐生倶楽部会報 第132号
2002年(平成14年) 12月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツポノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



澄み切ったふるさとを俯瞰

新春恒例吾妻山登山

地域が、日本が、世界が揺れ動きつつ、新しい年2003年を迎えました。こんなときこそ、足もとを見つめつつ、ふるさとを俯瞰するような視点にたどりつくことが大切で、桐生倶楽部恒例の吾妻山登山はまさにふさわしい催しです。快晴の1月12日、21人が参加しました。歩く会の各行事は昨年、好評を博し、大勢の参加者に恵まれました。今年も元気いっぱい、さまざまな企画が用意されています。

以下は後藤さんの吾妻山登山報告です。

平成15年1月12日午前9時、吾妻公園の駐車場に集合した参加者21人は、新年のあいさつを交わし、新しい世話人の紹介を行ったあと、雲ひとつなく晴れ渡った青空の下、山頂を目指して元気に出発しました。

1時間足らずで全員が山頂に到着。すばらしい眺望を楽しんだあと、雲の残る道を女吾妻、村松峠から宮本町へと下り、1時半ごろから昼食処「そば一」で新年会を行いました。みな楽しいだらんのひとときを過ごし、午後1時解散となりました。

新役員決まる



3 副
人 に 事

平成15年度 定時社員総会

平成15年度定時社員総会が1月30日に開かれ、新年度事業計画や予算案、任期満了にともなう新役員と副理事3人体制が承認された。

新役員は次の通り。

- 理 事 長 塚越 平人
- 副理事長 小池 久雄、五十嵐健雄、阿部 高久
- 理 事 矢野 昭、佐藤 富三、木島 清
岸 芳久、木村 隆夫、森 寿作
山口 正夫、赤石 清安、栗田 詔三
- 新 理 事 江原 毅、大西 康之、北川 洋
竹内 康雄、坪井 良廣
- 新 監 査 酒井 豊、松島 宏明
- 退任理事 飯山 清治、関口 全之、川村 治朗
岸田 英作、野田友治郎
- 退任監査 北川 洋、園田 昇

新しい年の船出祝う

新年互例会、謡曲が花添える

平成15年の桐生倶楽部新年互例会が1月4日開かれた。

来賓として訪れた大沢善隆市長は合併問題につ

いて「合併はめざしても特有の文化は大事に育てていく」とし、また笹川堯代議員は北朝鮮問題などにふれながら「ことしは外交上のかけになる年」と語り、地域あるいは国内外に多くの課題を抱えた平成15年の船出に際し、ひときわちからのこもったあいさつが続いた。

またこの席では、昨年秋の受章者である日野昇さん（藍綬褒章）金子宗吉さん（黄綬褒章）倉林俊雄さん（勲三等旭日中授章）、そして厚生労働大臣賞を授賞した鎗田実さんに銀杯が贈呈された。

祝宴では恒例となった謡曲を宝生流のみなさんが披露。荻野光昭さん、木島登美雄さん、武田きみ子さん、福田真司さん、饗庭正男さんが新春にふさわしい「鶴亀」で花を添えた。（出席者58人、2階大広間）



東京文学散歩報告

歩く会12月例会は恒例の文化探訪です。今年は東京文学散歩の第1回として、森鷗外と寺田寅彦をテーマに、ゆかりの上野不忍池境界と小石川植物園を訪ねました。42名の参加者は8日朝6:45桐生倶楽部を出発、50号・東北道・首都高を乗り継いで9時上野到着。車中では、美

不忍池 境界 わい



鷗外、寅彦にふれる

術部保倉さん・渡辺さんから、これから見学する西洋美術館・ウインスロップコレクション展に関し、詳細なレジメを用意されて懇切丁寧な事前説明を頂きました。

9月から開かれていたこの展覧会は、この日が最終日とあって、開館前から百人以上の観客が並ぶという盛況振りでした。この企画展はハーヴァード大学内のフォッグ美術館に大学OBで実業家のウインスロップが寄贈した3700点ものコレクションの中から、ブレイク・ロセッティ・アングル・モローといった写実主義や印象派とは一線を画す近代画家の作品を86点厳選して展示するもので、大変貴重な展覧会です。

ゆっくりと美術を楽しんだ後は、各自上野公園のあちこちで早めの昼食。12:30ロダンの野外彫刻前に集合、上野のお山を下り、不忍池を下って無縁坂へ。ここは森鷗外の名作「雁」の舞台となった処。不忍池東端のホテル水月の敷地内には鷗外の旧居が保存されています。この日は無縁坂隣に位置する旧岩崎邸を見学。東大建築科の主任教授だったジョサイヤ・コンドルが設計して、明治29年完成。英国ルネサンス様式の建物は現在国の重要文化財。絨毯の様に敷き詰められたイチヨウの葉と木造の西洋館とのコントラストが美しかったですね。

この日最後の訪問地は小石川植物園。現在では日光植物園と共に東大附属施設となっていますが、1684年幕府が作った薬草園が前身。吉宗の時代、養生所(施療院)が設けられ、山本周五郎の「赤ひげ診療譚」の舞台となりました。園内には「養生所の井戸」や青木昆陽が救荒作物としてサツマ

イモの栽培を試みたのを記念する「甘藷試作の地の記念碑」「旧東京医学校本館・重文」などが点在しています。物理学者で東大教授であった寺田寅彦は、若くしてこの世を去った妻の面影を偲びながら、幼い娘とこの植物園を散策して「どんぐり」という作品を残しました。

おとうさん、大きいどんぐり、こいも、こいも、こいも、みんな大きなどんぐりと小さい泥だらけの指先で帽子の中に累々としたどんぐりの頭を一つ一つ突つつく。

小石川をPM4:00発、桐生倶楽部6:30帰着。その名の通り、文化探訪の一日でした。(村田記)

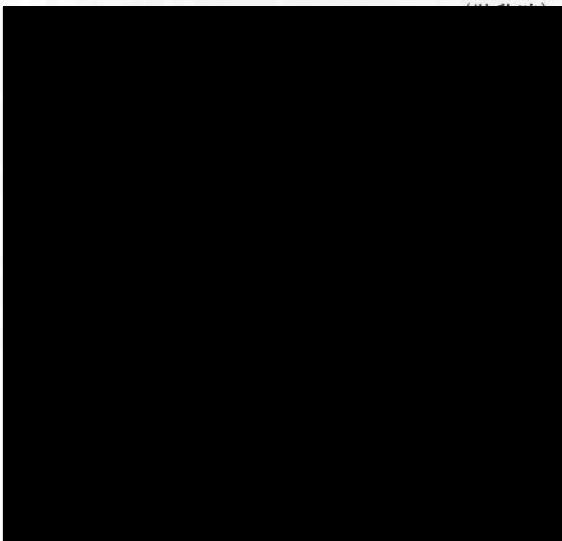


江戸期先人の業績たどる 懇話会が歴史講座

桐生倶楽部の懇話会は1月17日、歴史講座シリーズ郷土史家の大里仁一さんを招き、最近の研究の中から明らかになりつつある長沢仁右衛門の業績、さらには女性の教育者として特筆すべき田村梶子の話を聞いた。

支配階級が不在だった桐生で発達した町民自治をリードした人々だ。仁右衛門は多くの書物を集めて文化の向上に努め、梶子は教育者として織部の女性の開かれた意識のバックボーンとなった。

＝ 新入社員紹介 ＝



クリスマス会に歓声
恒例ミニコンサートも

社員が家族ぐるみで楽しめる恒例のクリスマス祭。昨年も12月7日、桐生倶楽部2階大広間におよそ50人を集め、盛りだくさんの企画でにぎやかに催された。

聖書の朗読や賛美歌の合唱、またすっかりおなじみとなったミニコンサートも。今回は須永由紀子さんが「美しき碧きドナウ」やクリスマスソングを披露し、雰囲気盛り上げて、山口正夫さん扮するサンタクロースの登場となった。用意されたお菓子や料理、たくさんのプレゼント、さらには抽選会と、参加した子どもたちは大喜び。会場は明るい歓声に沸きかえっていた。

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

時雨るるや村の神楽のまだ続き	久保田
帰さぬば濡れまじものを夕時雨	本 田
色極め紅葉は散るをためらはず	小 池
紅葉散る水琴窟の音の上	大 槻
大根引く大地にしかと腰を据え	尾 澤
夕時雨街の灯斜めに走りけり	吉 成
溪川を叩いて渡る時雨かな	有 阪
大根の今年も白う道になり	森

十二月

水尾引きて向き皆同じ鴨の陣	久保田
風邪癒えし子のビートルズ聞こえる	小 池
風邪引きて地金の出たり急げ癖	本 田
その中の小鸭の二三後につく	遠 藤
老いたれば風邪引かぬよう子の便り	有 阪
人通り絶えし街の灯冬される	尾 澤
冬ざれや音なく流る桐生川	大 槻
いつの間にか風邪寝の妻は台所	吉 成

＝ 倶楽部だより ＝

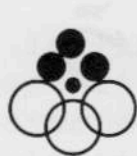
- | | | |
|-------|---------|-------|
| 【12月】 | 懇話会 | (6日) |
| | クリスマス会 | (7日) |
| | 歩く会例会 | (8日) |
| | 理事会 | (9日) |
| | 歩く会世話人会 | (11日) |
| | 写真部会 | (20日) |
| | 文化活動委員会 | (21日) |
| | はぐるま句会 | (26日) |
| 【1月】 | 新年互礼会 | (4日) |
| | 歩く会例会 | (12日) |
| | 歩く会世話人会 | (14日) |
| | 理事会 | (16日) |
| | 懇話会 | (17日) |
| | 監査会 | (20日) |
| | はぐるま句会 | (29日) |
| | 臨時理事会 | (30日) |
| | 社員総会 | (30日) |

【退社社員】

星野 弥一・糸井京三郎・岡田 一男
向田 進・三田 一郎・平野平四郎
パナファーマシー(株)

社団法人 桐生倶楽部会報 第133号
2003年(平成15年) 1月発行

発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 刷 ツボノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



50年の感謝を込めて 会館へモニュメント

桐生RCが倶楽部へ寄贈

伝統ある桐生倶楽部の一室で昭和28年に産声をあげ、以来半世紀、この建物をずっと例会場として使い続けているのが桐生ロータリークラブです。さる3月8日、ホテルきのこの森でその設立50周年記念式典が催され、席上、塚越平人理事長に対し、同クラブの阿部高久会長から感謝を込めてモニュメントの目録が寄贈されました。

このモニュメントは、市内在住の造型作家ヤマザキミノリさんがデザインしました。金メッキ金

具と磨りガラスの照明ホヤを組み合わせた灯体を御影石の基部にのせた作品で、桐生倶楽部の三つの理念「平和」「幸福」「友情」がひかりと形で表現されています。

伝統と風格に満ちた会館を気鋭の感性が彩ったモニュメント。1階ロビー左側の階段手すり親柱頭部に設置される予定で、お目見えは5月ごろになりそうです。

未来を熱く語り合う

倶楽部活性化をテーマに
新副理事長の2氏と社員

新たな展開を
阿部高久さん



誇りを持つとう
五十嵐健雄さん

月次会報告 3月

新しく副理事長となった阿部高久、五十嵐健雄両氏の講演と、参加した社員全員で桐生倶楽部の未来を語る会が、3月28日、2階大広間で開かれた。大幅な若返りが図られた新体制が、倶楽部活動の活性をめざして動き出している。その一環として、3月の月次会に同企画を当てたもので、新副理事長の考え方を受け、倶楽部の伝統を次の時代へ継承していくための方法論が話し合われた。

阿部副理事長は、こうした企画が月次会に登場する前段として、役員特別懇談会がすでに活動を始めたことを報告した。将来の倶楽部のあるべき姿をテーマに、理事と幹事で構成された同懇談会

では、年間事業計画や例会のあり方、さらには会員増強問題などに積極的に踏み込んで、そのたたき台づくりを進めているという。

とりわけ、国の登録文化財である会館を保存していくために、活動を楽しみつつ、しかし義務をしっかりと果たしていく重要性、また地域社会とのかかわりを深め、ファッションウィークなどの催し物への倶楽部としての参加なども、今後の課題として取り組んでいきたいとし、さらに、そうしたかかわりを持つことで会館の保存・維持への理解を深めてもらい、いずれ募金活動なども展開していければ、と述べた。

また五十嵐副理事長は、社団法人である桐生倶楽部の「社員としての誇り」について歴史をひもときながら語り、「選ばれて社員になっているという自負を大切にしていきたい」と強調した。

「世の中にはいくつも奉仕団体というものがあります。ロータリー、ライオンズ、あるいは青年会議所など。これらには上部団体というものがあります。でも、桐生倶楽部はこのまちの独立した団体です。社員の意向ですべて決まる」と、誇りの原点にふれ、限られた予算ではあるが、お金を超越した知恵を出し合い、会館を守りつつ、楽しい利用の仕方を発展させ、創始の精神を未来に引き継いでいきたいと語った。

両氏の話に続いて、会場はテーブルごとの意見交換の場になり、「会館の歴史や、この建物のこと自体をもっと知る機会が必要だ」「かつて工学部の留学生たちを招く行事を倶楽部が行っていたように、そうした催しもあっていい」などと、さまざまな要望があった。

会場は、ワインを飲みながらの和やかな雰囲気ながら、倶楽部の伝統ある活動と会館をいかに生きた形で未来へつないでいくか、忌單のない思いがここそこで交わされた。この日の意見は、理事会の席にも、後日反映されることになっている。

11年ぶり仙人岳 歩く会3月例会

歩く会の3月例会は実に11年ぶりの仙人ヶ岳でした。

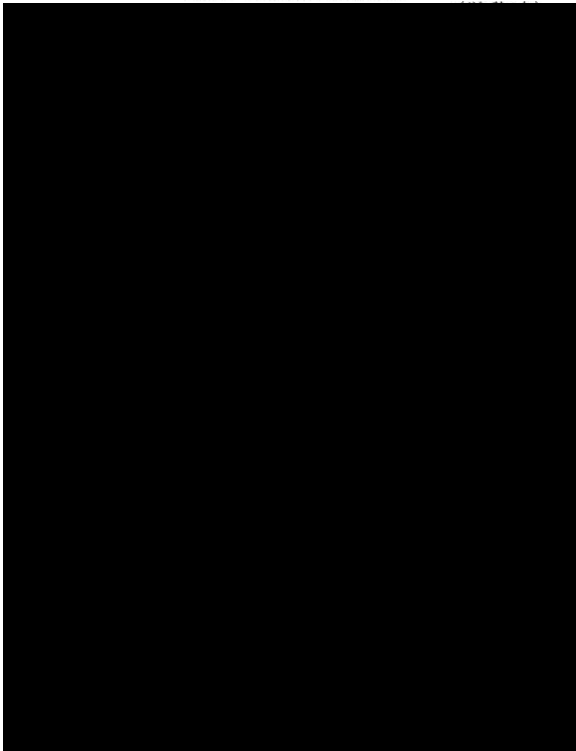
今回は、新入会の糸井さん、岸田さん、滝本さんにビジター参加者2名を加え総勢16人（女性3名含む）で頂上を目指しました。

岩切登山口より林の中、沢に沿って気持ち良く登っていくと生不動につく、さらに雑木林の道を行くと熊の分岐に出る。風はあるが晴天に恵まれ視界最高の景色が現れる。尾根つたいに頂上に到着。風をよけ日当たりの良いところで和気あいあい昼食をとる。元気回復。

帰路は下ったり登ったりの繰り返しの中、犬返しの岩場ではロープで下りる人、巻き道を下りる人と別れた。途中でマンサクの花が何本か散見されたが、うっかりすると下りに夢中で見逃す。そしてまたまた長い道を下りる。登りより長時間の下り道に疲れたが3時ごろには全員無事下山、お疲れ様でした。（吉田章記）



＝ 新入社員紹介 ＝



烏天狗を囲んで

2月歩く会、三峰山へ

歩く会の2月例会は好天に恵まれた9日、石仏の多い山として知られる三峰山を歩きました。

川内町の田中バス停で降り、解け残る雪を踏みしめながらまずは烏天狗との対面です。像を囲んで記念撮影したあとに、こんどは三十六童子へと向かいました。山頂へ着くまでに、途中何度も道を間違えたり、下山路では倒木に悩まされるなどのアクシデントがありましたが、午後3時過ぎには予定通り梅田忠霊塔に到着し、和気あいあいと楽しい1日を過ごしました。

一月

雪晴れの野に一筋の鉄路かな	久保田
悴みし手を御手洗に神詣	大槻
悴める手を握り合ひとうせんぼ	吉成
悴む手両手で包む別れかな	本田
ただいまの声悴んで下校の児	尾澤
名も知らず香に覚えある室の花	小池
神詣でくじ引く指の悴みて	有阪
金婚の早々届く室の花	遠藤
室の梅古歌朗詠の長々と	山田

桐生倶楽部はぐるま句会

二月

春時雨過ぎて畑の土匂ふ	尾澤
鶯を座禪の耳がとらへけり	本田
正造の生家の小さし春時雨	遠藤
安吾忌や粹な着物の女記者	小池
初音聞くバスはここ迄峡の村	久保田
万蕾の枝鶯を待ちわびる	大槻
鶯や影動かざる初音かな	吉成
四方(よも)の山ほんのり染めて春時雨	有阪

尾澤	本田	遠藤	小池	久保田	大槻	吉成	有阪
----	----	----	----	-----	----	----	----

＝ 倶楽部だより ＝

- | | | |
|------|---------|-------|
| 【1月】 | 歩く会 | (9日) |
| | 歩く会世話人会 | (12日) |
| | 理事会 | (14日) |
| | 懇話会 | (14日) |
| | はぐるま句会 | (27日) |
| 【2月】 | 歩く会例会 | (9日) |
| | 理事会 | (10日) |
| | 役員特別懇話会 | (17日) |
| | はぐるま句会 | (27日) |
| | 3月月次会 | (28日) |

【退社社員】

小森谷三令・丹羽武雄・荒木揚壺
 新井康家・塚越敏夫・川村治朗
 村田伊弘(逝去)
 岸田英作(逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第134号
 2003年(平成15年) 4月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツボノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

会館の端正な姿には、桐生人の「もてなしの心」が、にじみ出ています。
その存在感に気づいた人々が、魅了されたように遠方からやってきています。

歴史と伝統が、
ごくあたりまえの
顔をして、暮らし
の中に息づいてい
る。桐生というま
ちの、そんな構え
のない、自然なた
たずまいが、近年、
さまざまな方面か
ら注目されはじめ
ています。

都内の大学生が 進級旅行で訪問



なかでも、桐生倶楽部はこのまちの象徴的な存在と映るようで、4月の末、東京都世田谷区の成城大学短期大学の教養科、「人間と環境コース」の学生70人が、住宅・都市研究の一環として桐生を訪れ、会館内をつぶさに見学しました。

同科は3年前にも桐生を訪れており、有鄰館や大川美術館などを見学。「そのときから、桐生倶楽部の中をぜひ見たかったんです」と、今回の進級旅行を企画した先生たちは話しています。会館の端正な容姿に、素通りできない存在感を感じたようです。

学生たちは小池久雄副理事長から、この建物が桐生の客間として、大正時代からさかんに活用されていた歴史の解説を受け、近代桐生のもてなしのところが凝縮

されていることを知りました。時間いっぱい各部屋を回り、立ち去りがたい様子で見学している学生たちも見受けられました。

こうした機会は、ますます増えていきそうです。

■新理事に聞く■

本来の姿に戻したい 大西康之さん



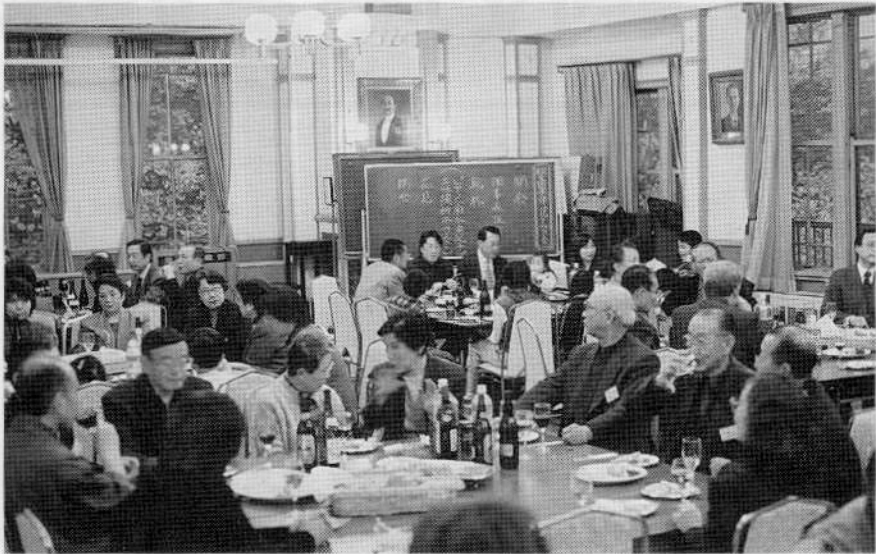
星霜を経た伝統的な建物が、このような形で人々のこころを揺り動かすようになってきた。こうした時代的な役割を認識しつつ、会館の将来をどう見すえていくか。新理事に就任した大西康之さんは、「基本的には、桐生倶楽部の本来の姿を取り戻していくことだと思います」と語る。

「営繕を担当するものとしては、さまざまな機会をとらえ、もとの姿に戻していく努力をしていきたい。できること、できないこと、みなさんの意見をしっかり聞き、協力をお願いしたい」

静かな注目が始まっている

花見、文化祭、大にぎわい

窓越しの夜桜に囲まれて
4月の月次会、美酒と音楽に酔う



4月の花見と、5月の文化祭が、ともに多くの参加者を集め、たいへんなにぎわいをみせた。

「桜と美酒とちょっと小粋な音楽会」と題した4月の月次会は5日、庭の桜の見ごろにあわせて企画されたもので、窓越しに見事な花を映しこんだ2階大広間会場に、酒や料理、だんごなどが用意された。一階では須永由起子さんのピアノ、鈴木みえ子さんの三味線による音楽会が催され、訪れた84人の参加者は、庭や館内を気ままに散策

しつつ、夜が更けるまで楽しんでいた。

胡弓の調べが花添える

また5月9日から開かれた文化祭は、ガーデンパーティーの行われた11日には96人の参加者でにぎわった。来日して10年、中国山西省生まれの馬高彦さんが胡弓演奏で花を添えた。

なお文化祭協賛各部大会の結果は次の通り。

【囲碁大会】優勝=福永儀一 準優勝=田村寛
3位=倉林俊雄 (5月10日桐生倶楽部6号室、他の参加者=岡田光弘、田中義弘、吉成敏郎、金井利雄、日野近七、金谷利雄)

【ゴルフコンペ】優勝=森田良徳 準優勝=腰塚富夫
3位=福田英雄 4位=朝倉泰 5位=上野武夫 B.B=五十嵐健雄 メーカー=篠田久

ベスグロ=朝倉泰 ニアピン=朝倉泰、福田英雄 (5月4日赤城カントリークラブ、参加者7名)

【麻雀大会】優勝=酒井豊 準優勝=岩田俊光 (代理人) 3位=養田隆
4位以下=飯山順一郎、蓮直孝、亀田和夫、北川洋、須永博之 (4月26日雀荘「川内」、参加者8名)





山と温泉、ビールと上野介 歩く会が浅間隠山へ

5月18日、歩く会の「浅間隠山」は雨天予報にヤキモキしたが、中里世話人の熱意が低気圧を追い払い、暑くもなく、寒くもなく、風もなく、気象予報士も驚きの降水0%の登山日和となった。

8時には二度上峠の登山口に到着。2週間前の下見の時には、登山口付近の道路にはいっぱい自動車が増車していたが、この日は予報のお陰でマイクロバスがゆっくりと駐車できる余裕である。

最近の登山ブームのせい、浅間隠山にも大勢の登山客がきているようで、登山道も整備されていて、非常に歩きやすくなっている。途中2回ほど休み、9時50分、無事山頂に到着した。

頂上には私たち桐生倶楽部の面々の独壇場で、気持ちがいいならありゃしない。「こっちに浅間山が見えるわけ…」「あっちに皇海山が見えるわけ…」と、雲の向こうのパノラマを夢想して、登頂祝いにビールで乾杯！何せだれもないのだから騒ぎ放題、飲み放題、食べ放題だったが、下界では天候回復の予報が出たのか、次第に登山客が増えてきて、10時半、下山を開始した。

このあと、駐車場からおよそ20分ほど下ったはまゆう山荘でたっぷりとお風呂につかり、ジョッキ片手に談論風発、和気藹々。この施設は横須賀市民の休養施設で、私のお気に入りの一つである。

この日倉測村では「小栗上野介・没後135年祭」が開催されていて、せっかくの機会だから上野介の菩提寺東善寺に寄っていくことになった。

寺で高校時代の親友と出会い、彼が高校の歴史教師であることから、みなさんに上野介の説明してもらった。山を楽しみ、温泉につかり、ビールを飲み、会話に心弾ませ、歴史を学び…欲張りすぎるほどに、充実感いっぱいの日であった。

(参加者20人、狩野喜範 記)

The Victorian Nude を鑑賞

—— 美術部会 ——

5月24日、久しぶりに美術部の美術鑑賞会を行いました。皆様のご要望が多かった The Victorian Nude を開催初日に東京芸術大学美術館で鑑賞しました。

「アカデミック」といわれる表現技法の中心になる18世紀～19世紀にかけての人体デッサンや彩色の研究をイギリスに限って、その地が栄えたヴィクトリア時代のヌード絵画を学術的に羅列展示された会場を見学しました。先進のイタリアやフランスのそれと比較すれば？……と考えたりして、多くの思考を要求されながらの難しい鑑賞でした。

近くの弥生美術館へ寄り、ここには竹下夢二の優れた作品が多数コレクションされていて、近年、夢二は日本の近代美術の中で見直されている注目のアーティストですからそれを再認識して優れた感情と情緒を味わい楽しく堪能しました。

木場の東京都現代美術館では「サム・フランシス展」を鑑賞しました。これはみごとな圧巻です。晩年の大作が豊富な色彩と広大な空間を広げて見る者を圧倒します。初めての方もいて強力な抽象絵画の力の強さに感激してしまっただけでした。

いま若者に人気の六本木ヒルズ最上階シティビューの海拔270mの天空より360度の眼下に広がる東京の街並の景観を眺望してから、巨大なモダンアートの街を散策し、ニューファッションとショッピングの雰囲気満喫してグルメの夕食で心を癒しました。

(桐生倶楽部美術部 保倉一郎 記)



＝ 新入社員紹介 ＝



県総合表彰に 5 氏

2003年度群馬県総合表彰受賞者が発表され、正田博之さん(保健功劳) 宮地由高さん(生活功劳) 新井淳一さん(商工功劳) 中野隆雄さん(商工功劳) 根津紀久雄さん(商工功劳) の5社員が荣誉に輝きました。おめでとうございます。

幻の三滝へ

4月の歩く会

4月13日、栃木県田沼町大戸川源流に三段にわかれた落差50米以上ある「幻の三滝」をたずねました。



晴天に恵まれ定刻8時、4台の自家用車に分乗し、梅田皆沢から飛駒を經由し蓬萊山奥の学林広場駐車場に9時半到着。直ちに装備を整え、いくつかの滝を眺め乍ら「木ぶし」の花の多い林道を約1時間で白ハゲロ広場へ。この先「山コース」「川コース」に分かれるが「山コース」を登る。里は桜満開だというのにこの辺りでは未だ木の芽も出ず、冬山のたたずまいです。

明るい雑木林の中を40分程登ると三滝展望台へ、ここからは上の2段しか望めない急降下の道を滝つぼへ、更に下って河原に降りて昼食タイムとする。12時過ぎに「川コース」を下って20分位で白ハゲロ広場へ、更に40分位で学林広場の駐車場に全員無事に到着しました。

(参加者15人、後藤久夫記)

三月

御手洗(みたらし)の龍の口より春の水
 菅葉のつばめしきりに無人駅
 春の水汲みて野点の華やげる
 白き雲浮かべて春の水たまり
 春暁や真砂女句集の枕辺に
 春の水満ちて息づく水車かな
 釣竿をかすめたわむる岩燕
 人影も鳥影もなく春の水

吉成 久保田 有阪 小池 大槻 尾澤 遠藤 本田

桐生倶楽部はぐるま句会

四月

白蓮の未練断り切るごとく散り
 ぐい飲の藍の深まる春の宵
 職退いて朝寐のかくも快よき
 木蓮の空へ旅立つ母なりし
 幸せは朝寝の子らの乱れ様
 老境を気ままに生きて朝寝かな
 嗜りを耳に残して朝寝かな
 白蓮の大樹を仰ぐ磴の寺

尾澤 有阪 本田 吉成 遠藤 大槻 小池 久保田

＝ 倶楽部だより ＝

- 【4月】・4月月次会 (5日)
- ・歩く会例会「幻の三滝」 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・写真部会 (21日)
- ・麻雀大会 (26日)
- ・はぐるま句会 (28日)

- 【5月】・ゴルフコンペ (4日)
- ・文化祭 (9~11日)
- ・囲碁大会 (10日)
- ・ガーデンパーティー (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・歩く会例会「浅間隠山」 (18日)
- ・美術鑑賞会(東京) (24日)
- ・はぐるま句会 (29日)

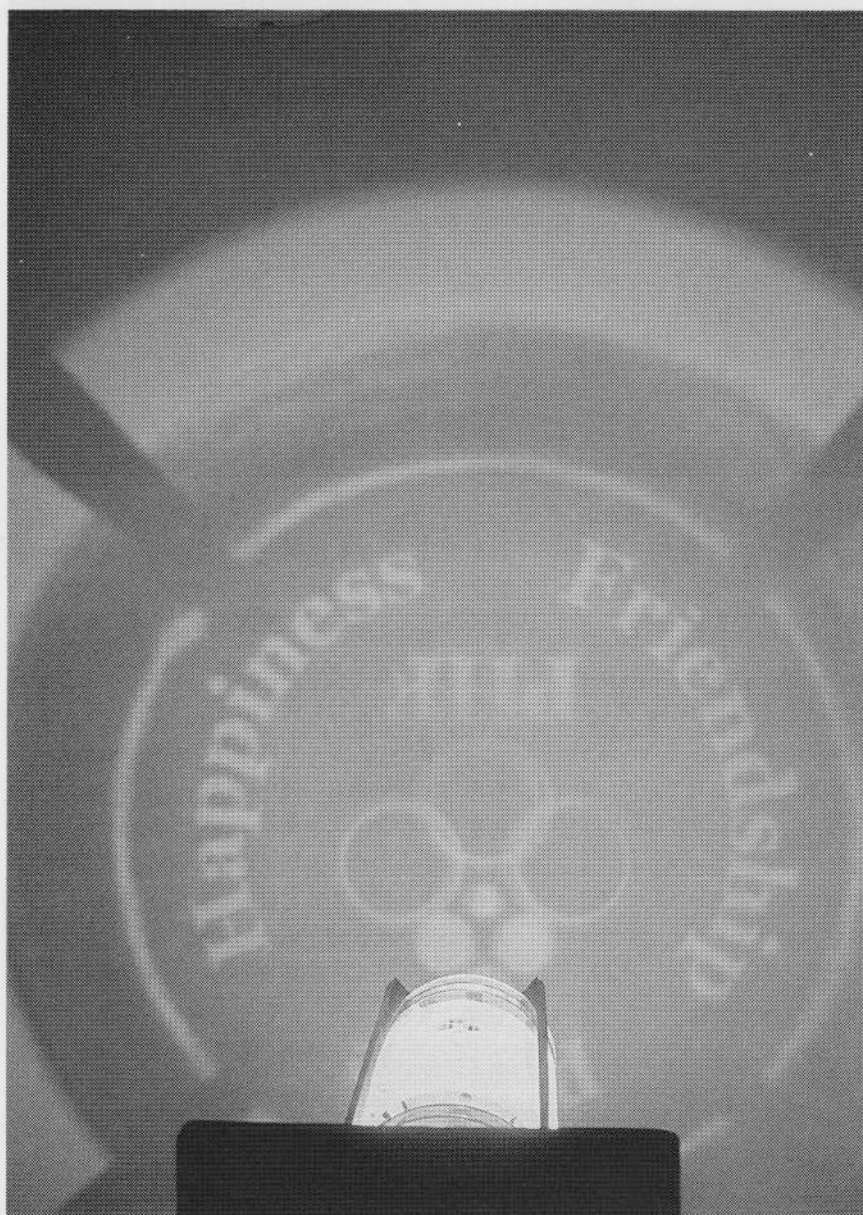
【退社社員】

平方敏郎(逝去)・川島 宏
飯山清治・斉藤正己(逝去)
船越和夫

社団法人 桐生倶楽部会報 第135号
 2003年(平成15年) 6月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 木村隆夫
 印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



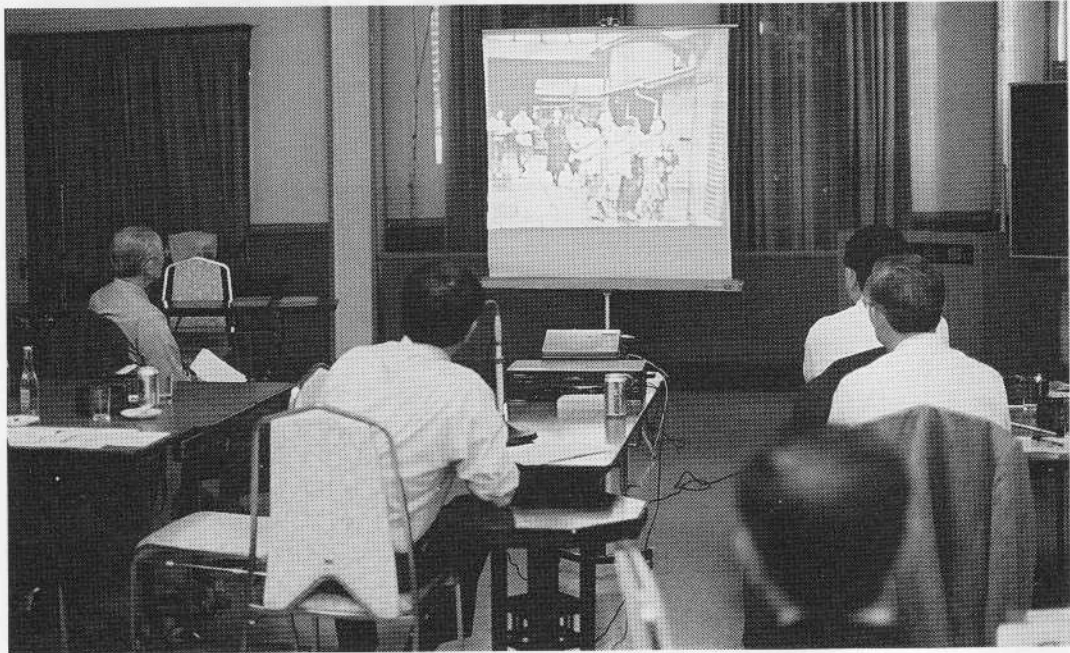
灯^{とも}火^{しび}を次代へつなぐ

新しいモニュメント

桐生RCの50周年記念事業として寄贈されたモニュメントの取り付けがこのほど完了し、点灯された。電気のスイッチを入れると、2階へ続く

階段の天井には、倶楽部の精神である Peace (平和) Happiness (幸福) Friendship (親睦) の文字が浮かび上がった。伝統を、さらなる未来へとつなぐ灯火である。桐生出身の造形作家、ヤマザキミノリさんの作品。

往時の織都の息づかい堪能



月次会報告 6月

桐生の近代を象徴する日本絹燃の往時の様子を記録した映像フィルムが、最近、市の文化財保護課の手によって掘り起こされた。これがビデオ化され、6月の月次会で公開された。工場内の様子や女子工員の日常生活が克明に記されていて、織都全盛期をしのぶ一級資料だ。「細部にはまだまだ調べが必要な部分があり、ご存じの方に教えていただきたい」という同課萩原清史さんの解説を聞きながら、参加者は真剣に見入っていた。

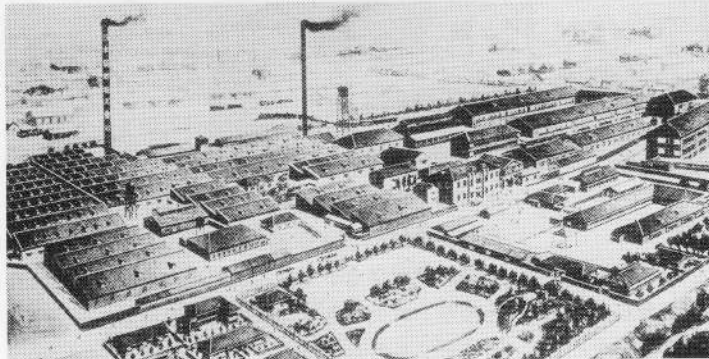
映像は、工場内の全体風景や仕事の姿、あるいは社内行事など、経済的な豊かさを背景とした最

日本絹燃映像を公開

新の工業技術と、そこで働く人々の生き生きとした表情をとらえており、おそらく社外PR用に製作されたものとみられている。

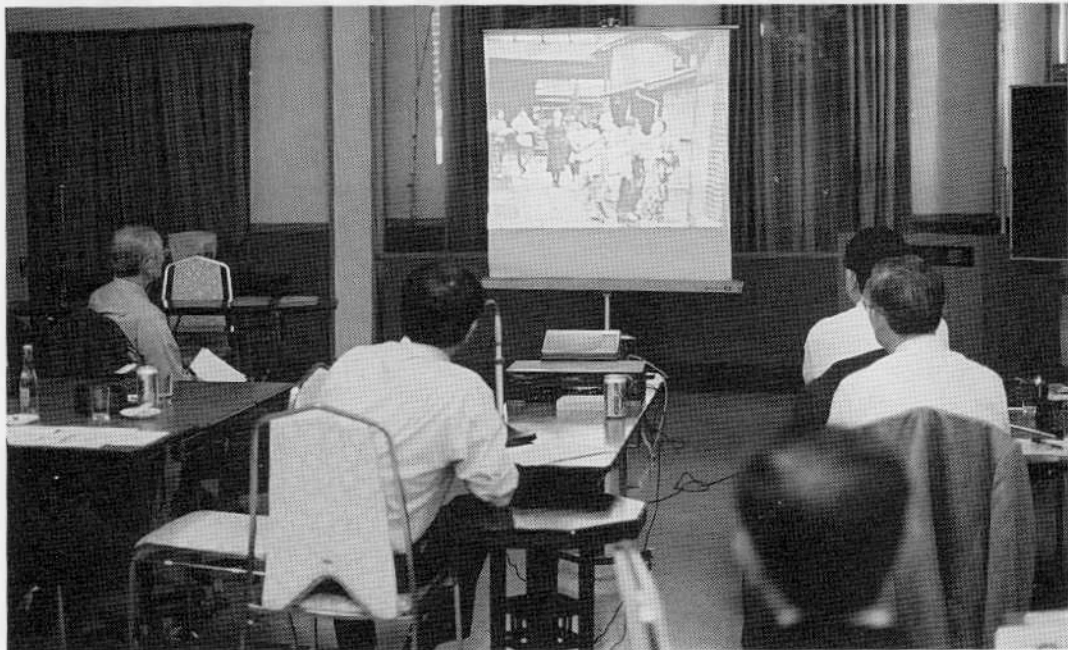
このなかで、とりわけ注目されたのは女工さんたちの学習風景だ。同社には、社員教育の質の向上が社業の発展につながるという確固たる思想があった。このため、読み書き、あるいは基礎的な計算など、彼女たちには勉学の場が用意されていたという。大規模工場での仕事においても、人材という視点に早くから気づき、実践していた先進性がこうしたシーンからうかがえるのだ。

織物のまち桐生の、確かな伝統の息づかいを食い入るようにつめていた参加者たちからは、放映終了の後、さまざまな感想が出された。(6月24日、2階大広間、参加者28人)



日本絹燃の全容
(絹燃記念パンフより)

往時の織都の息づかい堪能



月次会報告 6月

桐生の近代を象徴する日本絹撚の往時の様子を記録した映像フィルムが、最近、市の文化財保護課の手によって掘り起こされた。これがビデオ化され、6月の月次会で公開された。工場内の様子や女子工員の日常生活が克明に記されていて、織都全盛期をしのぶ一級資料だ。「細部にはまだまだ調べが必要な部分があり、ご存じの方に教えていただきたい」という同課萩原清史さんの解説を聞きながら、参加者は真剣に見入っていた。

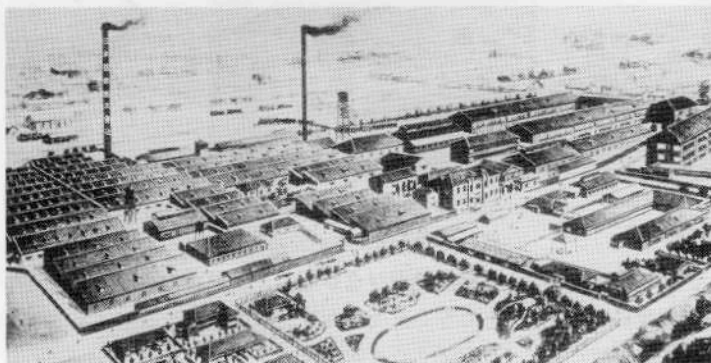
映像は、工場内の全体風景や仕事の姿、あるいは社内行事など、経済的な豊かさを背景とした最

日本絹撚映像を公開

新の工業技術と、そこで働く人々の生き生きとした表情をとらえており、おそらく社外PR用に製作されたものとみられている。

このなかで、とりわけ注目されたのは女工さんたちの学習風景だ。同社には、社員教育の質の向上が社業の発展につながるという確固たる思想があった。このため、読み書き、あるいは基礎的な計算など、彼女たちには勉学の場が用意されていたという。大規模工場での仕事においても、人材という視点に早くから気づき、実践していた先進性がこうしたシーンからうかがえるのだ。

織物のまち桐生の、確かな伝統の息づかいを食い入るようにつめていた参加者たちからは、放映終了の後、さまざまな感想が出された。(6月24日、2階大広間、参加者28人)



日本絹撚の全容
(絹撚記念パンフより)

＝ 新入社員紹介 ＝



ドキュメンタリーで撮影隊

テレビ朝日のドキュメンタリー番組を製作する撮影隊の一行が7月17日桐生倶楽部を訪れ、5号室、6号室で収録を行った。

桐生倶楽部はこれまで、大掛かりなロケ隊などの受け入れは一切認めてこなかった。しかし今回は、俳優などの演技を伴わない、撮影時間帯に会館利用がない、さらに撮影も短時間で済むということから特別に認められた。番組はスバル360の開発者、百瀬晋六が主人公。収録した場面は、会議の余韻を残した部屋のシーンとして使われた。

五月

葉桜やかからくり人形大舞台	小池
母の日に母となりたることを祝ぎ	遠藤
母の日や電話ばかりの遠き子等	久保田
筍を無沙汰の詫と宅急便	本田
筍を両手に和尚現はれる	尾澤
筍のこの世見ぬまま揺られけり	大槻
トンネルを出れば葉桜足尾線	吉成
葉桜の八十路に向ふ級会	有阪

桐生倶楽部はぐるま旬会

六月

南風吹くや紀伊水道の大漁旗	久保田
耳許に鳴く蚊の声を闇に打ち	尾澤
白南風になびかせ来る大漁旗	本田
南風やシーサー呪む屋根の上	小池
昼の蚊にどっと斃はる句碑の径	遠藤
青芝や朝陽が燃えてティーアップ	吉成
青芝の色を深めて雨上る	大槻
南風の中一歩一歩の大砂丘	有阪

＝ 倶楽部だより ＝

- 【6月】 ・ 歩く会例会「釈迦ヶ岳」 (8日)
- ・ 理事会 (9日)
- ・ 歩く会世話人会 (10日)
- ・ 月次会「ビデオで見る日本絹織」(24日)
- ・ はぐるま旬会 (27日)
- 【7月】 ・ 理事会 (14日)
- ・ 月次会&歩く会「白馬梅池」 (27日)
- ・ はぐるま旬会 (29日)

社団法人 桐生倶楽部会報 第136号
2003年(平成15年) 8月発行

発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツポノ印刷株式会社

平成15年10月10日

2003.

第 137 号 (1)

 **桐生倶楽部会報**

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



上信国境の秋を満喫 — 歩く会・四阿山へ

北朝鮮の核開発問題の行方



月次会報告
9月

松永陸将補が講演

九月の月次会は、陸上自衛隊第12旅団の松永敏陸将補が「最近の北朝鮮について」と題し、同国の核開発問題をめぐる国際情勢を語った。

榛名山麓を拠点にする第12旅団は、ヘリコプターなどの空の機動力を備え、現在は群馬、長野、栃木、新潟の四県を担当している。

北朝鮮に対する私たちの現在の関心事は、拉致問題と核開発問題。松永さんは「拉致問題を語る立場ではありませんので、核開発にしぼってお話します」と前置きし、最近の六か国協議から入り、まず、そこに参加した各国が北朝鮮とどのような外交的駆け引きを展開したか、各様の対応から解説した。

これによると日本はまず、すべての交渉の前提として、拉致問題の解決をあげている。一方韓国は、「戦争はしたくない」という立場でそこに臨んでいるという。これは、同胞の心情はもちろんだが、戦争ともなれば国境線に近い首都ソウルがまっさきに攻撃の対象となってしまうという現実的問題からの選択でもあるようだ。

ロシアは、北朝鮮に対して応援はしないという姿勢をとっている。そしてアメリカは、外交戦略的な緩衝として北朝鮮の大切さを認識しているも

の、核兵器を持ったままでは困るという立場。

各国それぞれの思惑がのぞいているが、今回一番注目すべきは中国がとった姿勢だという。中国と北朝鮮はこれまで、盟友として条約も結ぶ間柄だが、あきらかに態度はかわり、そうした中国の対北朝鮮外交の基本方針の変化が、北朝鮮を協議の場につかせる一因にもなった。

しかし、今後においても北朝鮮が核開発を放棄する可能性はないと松永さんは話す。その理由は、個人の独裁と言う特異な国家体制にとって対米抑止力という対外的要因、そして、個人独裁体制の強化という対内的要因から核を必要としているからで、経済的利益を獲得するためのカードとして利用しているという意見もあるが、「それはあくまで副次的目的にすぎない」と語った。

さらに、「韓国の立場を考え、また大統領選挙を来年秋に控え、アメリカがこの問題で軍事行動に出ることはないだろう」「北朝鮮は、核開発の時間確保のためにも、今後も交渉のテーブルにはつくだろう」と、先の見通せない状況がまだまだ続きそうだと分析した。

(9月30日、2階ホール、参加者40人)

日本百名山と花の百名山を巡る

－ 歩く会9月の月例会山行報告 －

今年は、実に雨の日が多い…。

山行の計画も、直前まで天気予報に振り回されてしまう。

しかし、この日は、快晴であった。

朝5:30 24名の参加者が集合…。本日の担当世話人の手違いで、即・出発とならず、10分遅れての出発となってしまった。

それでも、バスは順調に、快適に走り、8:30にはバルコール嬬恋スキー場に到着…今日は、風もなく、ゴンドラも動いているようで、まずは一安心。皆さんの身支度を整えるのを待って、元気な表情のうちに、ハイ・チーズ！

ここのゴンドラの料金は、面白い。50歳以上の人は、シニア料金となって、100円安…となる。下見の時に、「お客さんは、50歳以上ですから、シニア料金になります」と言われて、年齢を見破られたことと「シニア」という響きに、「えっ、オレって、シニア…?」と、非常にショックを受けた。

しかも、団体割引は30名以上…とありながら、



「24名ですが、団体割引にしてください」と頼むと、「いいですよ!」と、非常におおらかなのである。こういうおおらかさって、絶対に、いい。何か、私たちの毎日の生活にも、気持ちにも、こういうおおらかさって、必要だと思うな…!ともあれ、ゴンドラに乗って、山頂駅に着いて、9時に歩き始めた。

このコースは、ゴンドラで一気に稜線に上がるため、非常になだらかな稜線歩きが続き、歩き易い。ところが、頂上直下、ヤセ尾根の鎖場が二ヶ所も登場…。皆さん、慎重にここを通過して、全員無事11:00に、日本百名山「四阿山」に登頂…した。

「ヤレヤレ、お腹が空いた」

皆さん、これから根子岳を目指す前に、腹ごしらえをして、11:30「四阿山」を出発となった。

これが、嫌なんだあ…!

一気に、根子岳との鞍部まで下る。こういう時って、今までの上りの苦労は何だったのだ…って、時々、思ってしまう。しかも、登山道には、樹木の根っ子がいっぱい出ている、滑り易く、歩き難いこと極まりなし…である。

足の痙攣が起きてしまった人が出るのも分かるような、急な下りである。

しかし、ここで糸井さんは、いいことを言っていたなあ…!「何だ、この道は…!根っ子だらけじゃないか…!そうか、根っ子だけしかないから、根子岳かあ…」う～、サブウ～!

一旦、鞍部まで下って、いよいよ「根子岳」にかかる登り道は、草原のような熊笹の中を、ゆっくりと歩を運ぶのに最適な…心がグングンと大きくなっていくのが感じられるほどの爽快さである。足の痙攣の痛みに耐えながらも、自力で「根子岳」山頂に立った泉さんも立派…。これで、全員が、花の百名山「根子岳」に登頂成功…バンザイ!

14:00下山開始

花の百名山といわれるだけに、竜胆やマツムシ草、紅葉し始めたナナカマド等々 心と目の保養には十分なロケーションである。

腰塚さんや田村先生の手当てを受けながら、結局、最後まで歩き通した泉さんが菅平牧場にゴールインして、全員完歩…!

イヤ～、スゴイ…スゴイ!

こういうのって、スゴイ自信になるんだよね…。それにしても、桐生倶楽部の皆さんの思いやりと深い仲間意識に感動しました。

参加メンバーが辛く、困っている時には、担当の私が世話をしなくてはならないのに、多勢の人たちが、手を貸してくれる。本当に感謝…感謝である。

それに、この桐生倶楽部「歩く会」の山行は心強いですよね…!

一緒に歩いている仲間には、お医者さんも、看護婦さんもいるんですから…。

こんなにスタッフが揃っているパーティなんて、滅多にないですよ…!

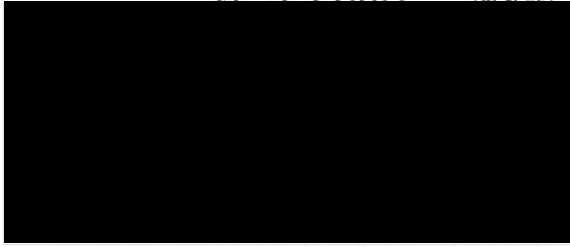
この紙面を読んでいる社員の貴方、さあ、貴方も安心して、「歩く会」の山行に参加しましょう…。

参加した皆さん、お疲れさまでした。私にとっては、全てのところで、感動と勉強の日でした。

(狩野喜範 記)

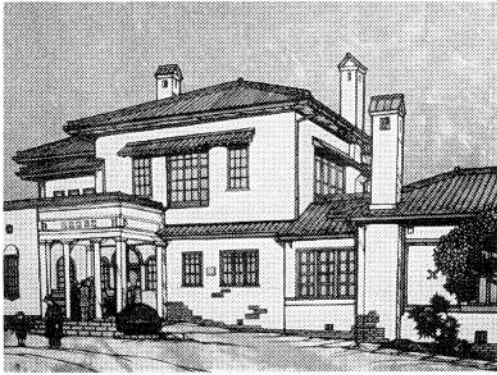
ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =



理事長が石井作品寄贈

切り絵作家石井一臣さんの作品が、塚越平人理事長から桐生倶楽部に寄贈されました。近く理事会を経て、掲示される部屋が決まります。



門扉を取り替え

門扉が新しくなります。工事は10月下旬に予定されています。



七月

挨拶をされて戸惑ふ藍浴衣
風鈴の風の道ある家並かな
紙魚食ひし父の遺愛の謠本
継ぎ浴衣露伴も遠くなりけり
大太鼓浴衣の袖をまくり上げ
留守番の独り風鈴鳴つてをり
一病を息災として藍浴衣
青春のはるかか葉紙魚の銀

尾澤 久保田 小池 吉成 有阪 本田 大槻 遠藤

桐生倶楽部はぐるま旬会

八月

声かけて行き過ぐ踊浴衣かな
呼びに来て代りに入りし踊の輪
走馬燈ひとり酌み居て幾めぐり
二人だけ分る合図よ踊の輪
盆踊り客人揃ふ峡の村
踊る輪に赤き鼻緒の小さき下駄
雲湧きて熱球飛ぶや百日紅

久保田 本田 小池 吉成 尾澤 大槻 有阪

= 倶楽部だより =

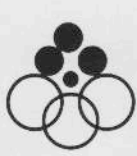
- 【8月】 ・理事会 (11日)
・歩く会世話人会 (19日)
・はぐるま旬会 (29日)

- 【9月】 ・理事会 (8日)
・歩く会「四阿山・根子岳稜線散歩」(28日)
・月次会「北朝鮮の核開発問題について」(29日)
・はぐるま旬会 (30日)

〈退社社員〉

清水 信次 ・ (株)みずほ銀行
小暮 敏勝

社団法人 桐生倶楽部会報 第137号
2003年(平成15年) 10月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 木村隆夫
印刷 ツポノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



合併を語ろう

話し合い、勉強の場継続

「桐生市の合併について語る会」が、10月18日、2階大広間で開かれました。

先達が未来の桐生の都市像を描き、その実現のための拠点として八十数年前に造ったのが桐生倶楽部。桐生の歴史が始まって以来の大切なときに、「何の発言、何の行動をしなくていいのか」と意見が出され、理事会の賛同を得て企画されました。「市が大きくなることと市民の利益とはどのよう

な関係にあるのか」「行政体が一体になることが前面に出ているが、生活者の視点はどうか」「こうした話し合いは遅すぎないか」「遅くても、結果が同じでも、プロセスが大切で、自治意識が高まれば、意味がある」など、忌憚のない意見が交換され、今後も継続して話し合い、勉強していくことが確認されました。

パンとワインと月と名曲



月次会報告(10月)

10月の月次会は「お月見コンサート」。およそ40人の社員が参加し、満月のもと、名曲とワインとパンを味わいつつ、深まりゆく秋のひとつときを楽しんだ。

当日の月は雲に隠れるあいにくの天気。しかし軽食とワインで一号室の歓談は弾み、ロビーでのコンサートは、山崎真由美さんのソプラノ、須永由起子さんのピアノで「月光」や「夕べの思い」

などの名曲が披露され、参加者はたえなる調べに深く酔いしれていた。(10月10日午後6時半開会)

息のむ臨場感

高林桐生署長が講演

月次会報告(11月)

11月の月次会は桐生警察署長の高林弘さんを招き、「おまわりさん生活38年目にしてあれやこれや思うこと」と題し、お話をうかがった。



警察の目から見た桐生、また現在の犯罪の動向など、興味深い話が多い中で、とりわけ参加者の心をとらえたのが、あの御巢鷹山の日航ジャンボ機墜落事故の体験談だ。高林さんはまっさきに現場に駆け付けた警察官の1人だった。史上最大級の事故の惨状を真近で見、捜索の一部始終にたずさわってきただけに、その話からは、息をのむような臨場感が伝わってきた。(11月12日午後6時2階大広間)



紅葉的那須、湿原と築 歩く会10月例会

晴天がつづき、週間予報でも雨の心配は全くなかったが、予報が変わりはじめ、前日の予報では雨になってしまった。予報はずれの期待も空しく、雨の朝を迎えてしまった。ああ無情!!日頃心がけのいい人ばかりなのに……………。

雨の暗い中を参加者の皆さん、時間前に集合したが、倶楽部入口の無断駐車トラブルで総勢25名、やや遅れての出発となった。

50号から東北道、途中上河内S.Aでトイレ休けい、7:30には那須インターを出る。登ってゆくにつれて雨が一段とつよくなり、とにかくロープウェイの山麓駅で様子を見て、コースの判断をすることで登ってゆく。車窓から両側の木々の黄色味が目立ち始める。雨足はいっこうに衰えず、予定コースの登山を断念。最頂の駐車場、鉱山事務所跡から下り、大丸駐車場で30分の休けい時間をとる。雨の中に煙る那須岳の中腹、周囲の木々の色とりどりの美しさに目を奪われる。那須は今紅葉のまっ盛りなのだ。上に登って鮮やかな紅葉を満喫したい、思わずため息が出る。でも那須の紅葉の一部を眺めることができた。

また来年、天気の良い日に来ませす。

8:30、駐車場を出発。沼原湿原へ向う。約1時間で到着。沼原湿原は白笹山の山腹標高1,200mにある、古い湖沼が衰えてできた湿原で、夏にはニッコウキスゲをはじめ、高山植物が沢山にみられる。最近皇太子一家のハイキングで広く知られるようになった。天気も幸い小康状態で、一同散策に出発、整備された木道を約1時間、湿原を一周、湿原の植物や周囲の景色を觀賞する。これで歩く会の目的も少しは達せられたかと、ひと安心。

湿原に接して、揚水発電の広大な調整池があり、夜間に下池の深山ダムより揚水、貯水して昼間、放水して発電する世界でも有数の規模とのこと。

1時間超のハイキングを終え、10:45、昼食予定の黒羽観光築へ向う。あと、どの位で着くの? 催促の音が掛かる中、12:30頃に築に到着、全員が鮎定食、各自が追加料理や待望のアルコール等、那珂川の流れを耳に築の風情をたのしみながら、川魚の味一番鮎料理に舌づつみをうつ。皆さん満足そうでこれで前半の変更、いくらか埋め合わせになったかな?

築を1:30に出発、帰路につく。途中の渋滞が心配されたが、一般道、東北道とも順調に走り、途中鹿沼S.Aでトイレ休けい、渋滞の佐野インターを通り過ぎ、館林インターで一般道へ。4:35全員無事帰着した。

お疲れさまでした。天気が悪くて残念でしたが、これにこりず、またぜひご参加下さい。

(塩島勇治 記)



晴天の子持山楽しむ

11月例会、15人が参加

平成15年11月16日。

定刻7時に参加者15名が自家用車4台に分乗し出発。8時25分登山口に到着。晴天に恵まれ気分よく、急登あり、ヤセ尾根の岩場等ありの変化に富んだコースを登頂し、山頂でのすばらしい展望を満喫し乍らの昼食等、十分に山登りを楽しめた一日でした。帰途子持神社を参拝し、子持温泉センターに立寄り汗と疲れを洗い流し爽快な気分です。16時過ぎ無事帰桐致しました。

ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =



江原さんに荣誉

経済産業大臣表彰

江雅織物工場社長で桐生織伝統工芸士副会長の江原殺さんが、このほど、経済産業大臣表彰を受賞しました。伝統的工芸品の普及振興に対する長年の功績が評価されたものです。おめでとうございます。

写真部が反省会

写真部は11月18日、今年度の反省会を開き、来年度の予定およびロビー展示の写真入れ替えなどを行った。出席者は8名。

秋期囲碁大会開く

恒例の桐生倶楽部囲碁大会が、平成15年11月15日、6号室にて開催されました。

午前10時30分から夕方5時まで、丁々発止と楽しく烏鷲を戦わせました。

出席者は次の通り（敬称略）

- 岡田光弘 福永儀一 倉林俊雄 田中義弘
 - 田村 寛 吉成敏郎 日野近七 金谷利男
- （以上8名）

（毎週土曜日午後クラブ6号室にて会員で碁盤を囲んでいます。会員の方気楽にお寄り下さい。）

（吉成）

新しい門扉が完成

新しい門扉の取り付け工事がこのほど終了しました。基礎からがっちり固められ、耐久性にすぐれ、扱いやすさも格段に向上しました。

九月

山霧をたどれば秘湯灯の淡し
 久保田
 目覚むれば虫の音雨の音となり
 小池
 山頂の寝釈迎うすうす霧の中
 遠藤
 霧の中ぬつと鼻出す牧の牛
 尾澤
 鈴虫の動かずなりし朝の明け
 大槻
 虫の声聞きたくくなりて山の宿
 吉成
 虫の音を枕に一夜旅の宿
 有阪

桐生倶楽部はぐるま旬会

十月

山峡に黄菊残して暮れ初めぬ
 久保田
 破れ蓮の矢折れ重なる古戦場
 遠藤
 残菊によき日和あり蔵の町
 小池
 やや寒し戌いらの日待たるる書齋かな
 吉成
 残菊といへどもまだまだその気品
 大槻
 やや寒く夕空の雲ふえにけり
 有阪
 残菊が見送る山の無人駅
 尾澤

= 倶楽部だより =

- 【10月】・歩く会世話人会 (6日)
- ・月次会「お月見コンサート」 (10日)
- ・歩く会例会「紅葉の那須」 (12日)
- ・理事会 (14日)
- ・桐生市の合併について語る会 (18日)
- ・はぐるま旬会 (25日)
- 【11月】・役員特別懇談会 (4日)
- ・理事会 (10日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・月次会「お祭りさん生活38年日にしてあれや
「お祭りさん生活38年日にしてあれや
これや思うこと」 (12日)
- ・文化活動委員会 (14日)
- ・囲碁秋期大会 (15日)
- ・歩く会例会「子持山」 (16日)
- ・写真部会 (18日)
- ・はぐるま旬会 (27日)
- ・懇話会 (28日)

〈退社社員〉

加藤昌克・小山利雄(逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第138号
2003年(平成15年) 12月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 木村隆夫

印刷 ツボノ印刷株式会社



桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

桐生人の気概語る

平成16年度社員総会で理事長が講演



桐生というまちは、先輩たちのたいへんな努力の結果として、現在がある。そして、桐生倶楽部はその伝統を受け継いでいるのです。塚越平人理事長は、平成16年度定時社員総会で記念講演を行い、ものづくりの礎をなすまちの気概について、群馬大学工学部を例にあげ、語った。

理事長によれば、桐生はテナント出店ひとつとっても、ほかのまちとは形態が違うという。

「例えば足利や佐野の商店が大型店に店を構える場合、本店をたたんでしまうことが珍しくないようです。でも桐生では、出店はしても本店は残している。こういう考え方に立つのは、生産に携わる人が多いまちの特徴だと思うのです。城下町でなく、商人のまちであるがゆえの自主独立の精神です」

そして、このような精神、また、ものづくりのまちとして成熟していくうえで近代の核となった工学部の前身、桐生高等染織学校の創立のいきさ

つにふれ、理事長は開校に傾けた地元の人たちの情熱、またこうした運動を実質的に支えた桐生懇話会（桐生倶楽部の前身）の役割をひもときながら、これらが桐生の誇るべき伝統である、若い人に知ってほしい桐生である、と結んだ。

新年度事業案など承認

平成16年度平時社員総会は、15年度事業概況報告、同年度決算報告及び会計監査報告、平成16年度事業計画及び収支予算案など、3議案を可決した。

また小池副理事長は、15年度事業概況報告の中で社員数にふれ、理想的には330人規模をめざしたいと述べ、引き続き社員増強に協力をお願いしたい、と述べた。（1月30日、2階ホール）

船 そして 美術館



歩く会12月例会

横浜関内界隈を歩く

12月7日朝6:45桐生倶楽部を出発、参加者45名。
9:40横浜駅東口到着。ここから始発(10:10)のシーバスに乗り、山下公園まで20分の船旅。

本日の第一目的である新装横浜港大栈橋を海から眺める。途中、みなとみらい・レンガパーク・海上保安庁埠頭・キング(県庁)クイーン(税関)ジャック(開港記念会館)の三塔・山下公園・マリントワーなどを海から遠望。みなとみらい栈橋には帆船「海星」が停泊中。この船は1990年ポーランドで建造された二本マストのブリガティンという型式の現役の帆船で、NPO日本セイルトレーニング協会が所有し、青少年の情操教育に役立っているものです。10:30山下公園栈橋着、公園内ではサンディエゴから贈られた「水の守護神の像」・「赤い靴の少女の像」「インドの水塔」など定番の史跡を訪ねました。

11:00横浜大栈橋到着。百八年ぶりにリニューアルしたこの栈橋は国際コンペで優勝したムサビ(イラン) & ザエラ(スペイン)のデザインによるもので、この日横浜旅行のメインテーマです。栈橋全体を客船のデッキに見立てて、表面を木材と芝生で不思議な曲面に仕上げた開放感溢れる市民の公園としての機能を備えた美しい建築物です。

栈橋では折からの好天に気温は20度近くとなり、皆さんシャツ一枚になったり袖まくりをしたりして、晩秋の陽射しを楽しみました。

12:00日本郵船歴史資料館着。ここは単なる企業資料館に止まらず、維新以来の日本と横浜の海運の歴史を語る上で貴重な博物館です。日露戦争・日本海海戦で「適艦見ユ」を打電して日本艦隊を勝利に導いた「信濃丸」は日本郵船所属の商船で、戦後東郷元帥から贈られた感状(感謝状)が館内に展示されていて、一昨年横須賀訪問の際の戦艦三笠との不思議なえにしを思いました。

昼食はフリータイム、皆さん中華街・レンガパーク・伊勢佐木町・元町などで昼食&ショッピングを楽しみました。3:20横浜市立美術館着、企画展「中平卓馬」を観ました。中平(昭和13年生まれ)は60年代反体制の写真家として名を馳せませんが、70年代後半からは超写実主義に変貌して、今も現役で活躍している写真家です。作品に対する好き嫌いは別として、この美術館は開館以来一貫して、映像作品をしっかりと扱い続けています。

夕闇迫る5:00横浜発、予定通りの7:50桐生倶楽部帰着。天候にも恵まれて楽しい日曜日でした。

各界代表が 思いを交歓

恒例の互礼会

桐生倶楽部の平成16年新年互礼会が1月4日開かれ、社員62人が参加し、新しい年の門出を祝った。

一部に景気回復の兆しが伝えられながらも、地方にはまだまだその実感が薄く、昨年来の厳しい経済情勢は続いている。こうしたなか、国政において、あるいは市政において、また、地域において、何を課題にどう取り組むべきか。各界を代表する人々の意見が年の初めに一同交わる場。それがこの倶楽部恒例の互礼会だ。

塚越理事長に続き、大澤桐生市長、笹川衆議院



議員、佐藤商工会議所会頭、全国商工会連合会の近藤英一郎名誉会長があいさつした。

桐生観友会による連調「羽衣」「鉢木」が披露されたあと、会は祝宴へと移り、それぞれのテーブルごとに盛り上がりを見せていた。

(2階ホール)

新 春

吾妻山 初登り



1月11日(日)午前9時、吾妻公園集合。総勢21名。新年のご挨拶を交わして登山開始。約1時間にて頂上に立つ。少し風があったが好天に恵まれて、最高の大展望が得られました。赤城、榛名、浅間、蓼科、八ヶ岳連峰、富士山が眺められ、

山に登った甲斐がありました。

記念撮影のあと、村松沢にくだり始めたら急に北風が強く寒くなりました。11時予定どおり「そば一」にふるえながら飛び込みました。特製の温かいそばひもかわが美味しかった。(森口記)

ようこそ倶楽部へ

= 新入社員紹介 =

(敬称略)



十一月

風や草に沈みし群雀
 健診を終へし安堵の冬日和
 飯住みの鉢に咲かせて石路の花
 冬晴れや湯の湖の鱒も釣りおさめ
 赤き実の日に日に減りし冬日和
 旗拳の塚の繕ひ石路の花
 木枯しの唸りて荒ぶ杉木立

久保田
 小池
 尾澤
 吉成
 大槻
 遠藤
 有阪

桐生倶楽部はぐるま句会

十二月

浅草の万太郎句碑冬日かな
 冬の日へ鉢の蕾を向けにけり
 葱の香が眼鏡曇らす朝餉かな
 北風も名物として機町の
 光陰の早し冬の日記を修す
 庭菜園惜しくて抜けぬ葱三本
 冬の日の庭師忙しくなりにけり

小池
 大槻
 尾澤
 久保田
 遠藤
 吉成
 有阪

= 倶楽部だより =

- 【12月】
- ・合併を考える会 (2日)
 - ・歩く会例会「横浜」 (7日)
 - ・理事会 (8日)
 - ・歩く会世話人会 (9日)
 - ・行事委員会 (10日)
 - ・クリスマス祭 (13日)
 - ・はぐるま句会 (22日)

- 【1月】
- ・新年互例会 (4日)
 - ・理事会 (9日)
 - ・歩く会例会 新春恒例「吾妻山」 (11日)
 - ・歩く会世話人会 (13日)
 - ・監査会 (19日)
 - ・はぐるま句会 (28日)
 - ・臨時理事会 (30日)
 - ・定時社員総会 (30日)



歓声！クリスマス祭

社員と家族、57人が参加

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月13日に開かれ、社員とその家族57人が参加した。

華やかに飾りつけられた二階ホール、テーブルにはたくさんの料理や飲み物が用意された。岸理事扮するサンタクロースが現われて、会はいよいよクライマックス。和やかな雰囲気の中に、プレゼントをもらって大喜びする子どもたちの歓声が響いた。

〈退社社員〉

本田 孝太郎・須賀 武次・宮地 秀吉(逝去)

社団法人 桐生倶楽部会報 第139号
 2004年(平成16年) 2月発行
 発行人 塚越 平人
 編集責任者 木村 隆夫
 印刷 刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



倶楽部の桜 ならではの風情

「きれいだね」と、庭のサクラの花盛りが、ことしは例年にも増して、訪れる人たちの心をとらえてたようである。

彼岸のころにはすっかり準備を整えて、「もう待ちきれない」とばかりにふくらんでいた蕾。4月の声を聞かずに、はや五分咲きとなった。

花の見ごろにあわせ、きまって地面に降り積む花がある。実はこれが、倶楽部のサクラ独特の五分咲きのサインだ。種を明かせば、花の蜜を吸いにくる野鳥たちの仕業なのだという。

花の季節を待っているのは人間だけではないという、倶楽部ならではのたたずまいである。

桐生の原点、天満宮



月次会報告 3月

平成の大修理が進んでいる桐生天満宮（前原勝宮司）について、事業の概要や進捗状況の解説が3月22日、2階大広間で行われた。

桐生の歴史と天満宮はどのようにかかわりをもっているか、そして、今回の修理の意義は何かを、専門家から学ぼうと3月の月次会が企画したもので、桐生市文化財保護課の増田進さん、天満宮の歴史に詳しい生涯学習課の萩原清史さんを講師に招き、社員33人が熱心に聴講した。

増田さんははじめに、天満宮を起点に進められた400年前の桐生のまちづくりの基本計画を示し、桐生新町が天満宮と共に歩んできたまちであることを、文献を使いつつ、解

大改修の意義 歴史をまなぶ

説した。

萩原さんはその天満宮の施設の文化財的意義を説明した。とりわけ、天満宮末社春日社のように貴重な古建築もあり、価値は高いという。とはいえ、全体的には一部を補修したものの、総じて耐久年数は250年をへて、屋根、天井、縁回りなどかなりの痛みが出てきている。また、垂木が下がり、外観にくさが目立ちはじめている。さらには、はく落が進んでしまったものの、いまならば彩色彫刻の色の調査が可能で、そうしたこともふまえ今回の大掛かりな補修に至ったと、その経緯を語った。

400年間守り継がれてきたものを後世に伝えていく。そのための大修理の実情にふれ、参加者は深い興味を示していた。

吉野梅郷、御岳山へ 歩く会3月例会



3月14日(日)朝6時30分、大型バスにて桐生倶楽部を出発。参加者34名。伊勢崎ICより北関東道、高崎JCTを経由して関越道を青梅と向かう。

途中高坂SAで小休憩の後圏央道を通って予定時間より30分早く吉野梅郷に到着。駐車場より歩いて青梅市「梅の公園」に、正面入口で記念撮影後公園内に入り自由散策となる。公園内は既に大勢の人で一杯、三脚を立てて写真を取っている人、紅梅、白梅、しだれ梅(紅、白)と満開の花を見て歩いているグループで広い公園も満員状態でした。行ってみて

8時30分前に入場すれば入園料(200円)と
のことで、会計担当として一寸残念でした!!

満開の花を見ながら歩き回った後、公園から駐車場まで民間の梅園、各住宅の庭の花を觀賞しながら歩く。公園とはまた違った雰囲気の良いがありました。10時25分に梅郷を後にし御岳へ。滝本駅からケーブルカー10分で山上の御岳山駅に到着(歩くと1時間とのこと)し、全体で記念写真を取り13時半まで自由散策となる。

ほとんどの人は参道を歩いて頂上の御岳神社へ、途中の道は予想より急な石段のところもあり、各自マイペースで登る。参拝後は門前の茶店で昼食を取る人、宝物殿前のベンチで持参の昼食を取る人等様々でしたが、13時30分に御岳山駅に集合しケーブルカーで下山後、玉堂美術館を見学し、バスにて別格本山塩船観音寺へ向かう。本堂、山門、阿弥陀堂が国重要文化財に指定されているとのこと。シーズンオフのため静かな佇まいのお寺でしたが、つつじの季節には(花のお寺として有名)たくさんの人で賑う様です。

16時20分塩船観音寺を後に帰路につく。高速道路も順調に伊勢崎ICを下り、渋滞が心配された50号を避け、木島理事推奨のルートを通って予定より早く桐生倶楽部に到着しました。天候にも恵まれ楽しい一日でした。

ご参加の皆様、お疲れ様でした!!

今後の歩く会の企画にもたくさんの参加お待ちしております。
(吉田)



2月は赤城、不動滝

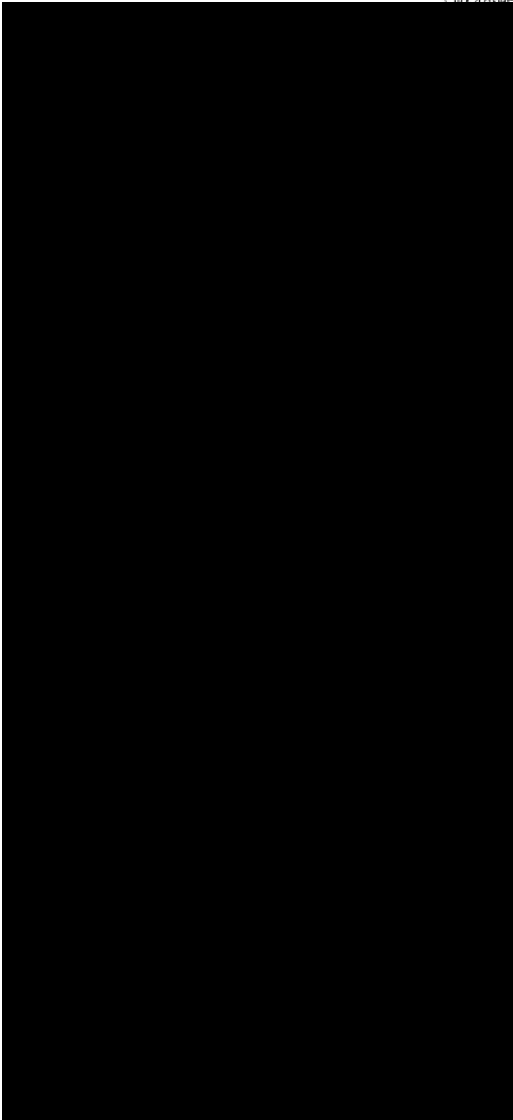
参加者12名、定刻8時、3台の自家用車に分乗して、桐生倶楽部を出発。宮城村の中心部を抜け赤城温泉郷へ。前夜来の雪が通路にも現れる。滝沢温泉前を更に奥へ滝沢不動尊入口の駐車場へ8時50分到着。装備を整え雪に覆われた遊歩道に入る。新雪の下は凍結しているので足元があぶない。約20分位で滝沢不動尊へ。

これから先は河原に下り、川沿いの路を進む。途中「忠治の岩屋」等を見学しながら大滝には9時50分に到着。今年は暖冬の為か期待していた大氷柱にはお目にかかれませんでした。落差50mの大滝を直下から見上げる事が出来ました。

10時50分駐車場に戻り、11時に忠治温泉前にて解散といたしました。

雪景色を眺めながらの往復2時間強の心地よいハイキングを楽しむ事が出来ました。

＝ 新入社員紹介 ＝ (敬称略)



桐生倶楽部はぐるま句会

一月

雪晴れや軒の雫を籠り聞く	久保田
臘梅やただ一輪の香でありし	小池
初夢の記憶の糸の解ぐれざる	大槻
雪晴れや関八州の日の光	尾澤
山火事の寒の夜空を染めにけり	遠藤
雪晴れていらかの波のきらめきぬ	有阪
寒参りデンデコデン風が舞ふ	吉成

二月

つり人の二月の光こぼし振る	遠藤
測量の杭のあちこち犬ふぐり	尾澤
豆撒くも拾ふも一人声低し	小池
天神の絵馬重なりて二月かな	吉成
鬼の豆浴びて善男善女かな	大槻
籠り居の予定延ばして二月尽	久保田
道端を吾が縄張りと犬ふぐり	有阪

＝ 倶楽部だより ＝

- 【2月】
- ・ 理事会 (9日)
 - ・ 歩く会世話人会 (12日)
 - ・ 歩く会例会 (写真部協賛) (15日)
 - 「赤城不動大滝」
 - ・ はぐるま句会 (24日)
- 【3月】
- ・ 理事会 (8日)
 - ・ 歩く会世話人会 (11日)
 - ・ 歩く会例会 (吉野梅郷と御嶽山) (14日)
 - ・ 月次会 (天満宮の改修について) (22日)
 - ・ はぐるま句会 (26日)

写真部だより

2月15日(日)、宮城村不動大滝周辺の雪と氷、赤城大沼周辺の霧氷と地ふぶき等の撮影に行ってきました。



＜退社社員＞

星野精助 足利銀行桐生支店 足利銀行新宿支店
鎌田 実 大塚 洋 坂入良一

法人会員から個人会員に変更

河原井ホンダ～河原井源次

社団法人 桐生倶楽部会報 第140号
2004年(平成16年) 4月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 木村隆夫

印刷 ツボノ印刷株式会社